

【訂正後】



2016年3月期 第2四半期決算 決算短信補足資料

2015年11月5日
日本水産株式会社

◆食品事業が大幅に増収・増益。水産事業は増収・減益。ファイン事業は若干の減益。

(単位:億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率(%)		2016年3月期 年間見通し	年間見通しに対 する進捗率(%)
売上高	3,215	3,022	192	106.4%	6,360	50.6%
水産事業	1,337	1,302	34	102.7%	2,726	49.1%
食品事業	1,571	1,444	127	108.8%	2,995	52.5%
ファインケミカル事業	127	128	▲ 1	98.8%	280	45.4%
物流事業	75	71	3	105.5%	152	49.7%
その他	103	75	28	137.1%	207	50.0%
営業利益	95	102	▲ 6	93.6%	170	56.4%
水産事業	10	40	▲ 30	25.2%	60	16.8%
食品事業	62	37	25	166.1%	68	92.5%
ファインケミカル事業	22	26	▲ 4	84.0%	44	50.7%
物流事業	9	8	0	107.0%	17	53.9%
その他	4	3	0	110.5%	5	82.3%
全社経費	▲ 12	▲ 14	1	88.7%	▲ 24	52.9%
経常利益	109	115	▲ 5	94.9%	185	59.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	67	58	8	115.2%	105	64.7%
EPS(1株当たり純利益)	24.60円	21.35円	-	-	38.01円	-

◆前年同期比で増収ではあるが、営業利益は若干の減益

海外は北米が順調に推移する一方、南米は減益幅が拡大。
国内は食品事業の利益が伸長し、水産事業も堅調に推移。

【水産事業】 増収・減益

国内：鮭・鱒は販売価格が下げ止まり、すりみおよび魚油・魚粉は販売価格が堅調。
海外：北米ですりみの販売数量が増加したものの、南米の鮭・鱒養殖事業で飼料の高騰や魚病の影響とともに、販売価格下落と在池魚評価損拡大があり、大幅に収支悪化。

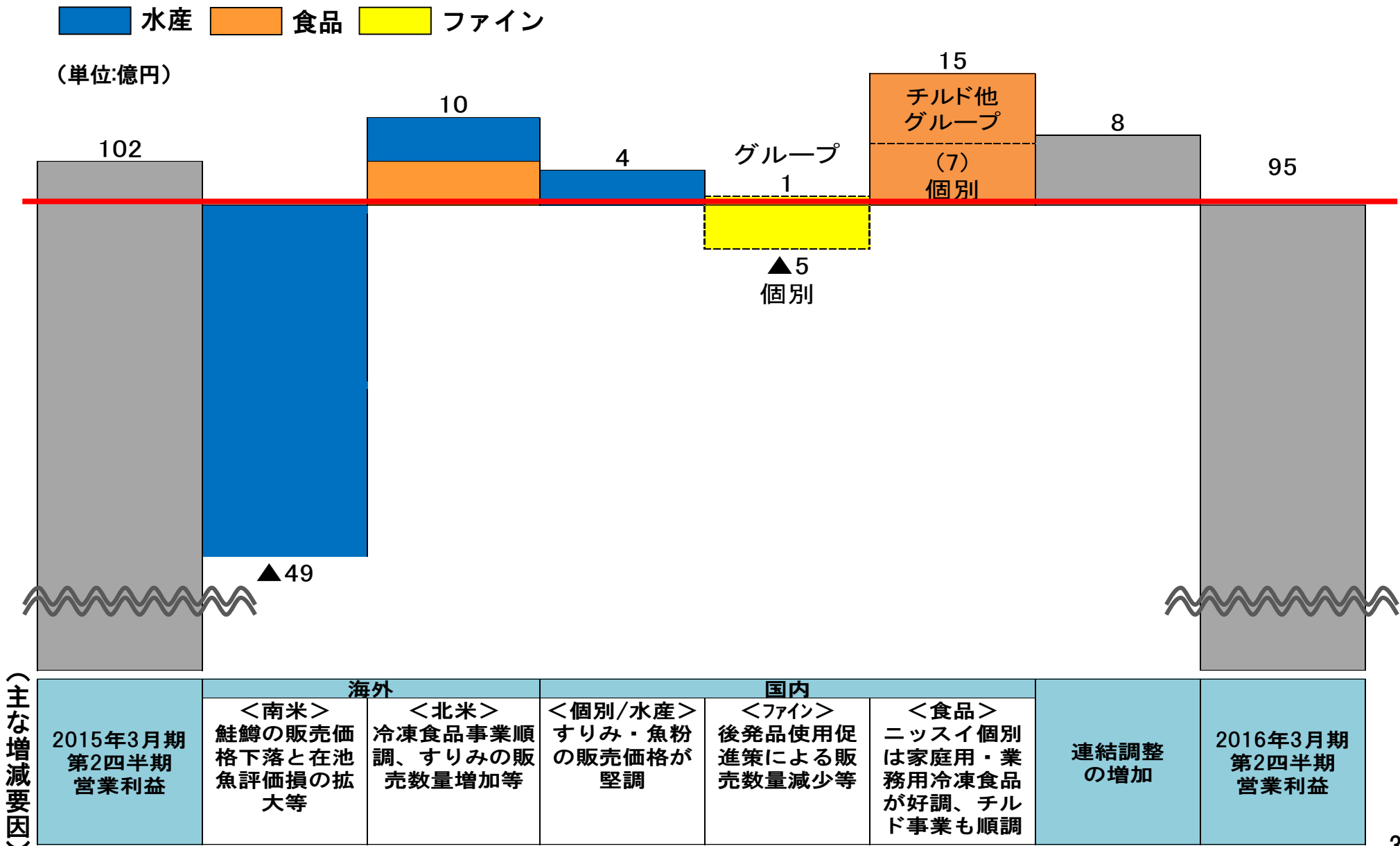
【食品事業】 増収・増益

国内：すりみなどの原材料コスト高騰や、円安による加工品の調達コスト上昇があったものの、価格改定やコストダウンに努め、家庭用・業務用冷凍食品を中心に好調に推移。チルド事業も好調を維持。
海外：北米、欧州が売上・利益とも伸長。

【ファイン事業】 減収・減益

ニッセイ個別は、後発医薬品使用促進策による医薬原料の販売数量減少が続く。
グループは、臨床診断薬、産業検査薬などで販売が堅調。

主な営業利益増減要因



セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	1,035 (27)	307 (104)	107 (▲12)	45 (▲35)	241 (9)	1,736 (92)	▲399 (▲57)	1,337 (34)
	1,008	203	119	81	231	1,644	▲341	1,302
食品事業	1,643 (74)	351 (72)		39 (12)	111 (15)	2,145 (174)	▲574 (▲47)	1,571 (127)
	1,569	278		27	95	1,971	▲526	1,444
ファイン事業	136 (1)			1 (0)		138 (1)	▲11 (▲2)	127 (▲1)
	135			1		136	▲8	128
物流事業	137 (21)					137 (21)	▲61 (▲17)	75 (3)
	115					115	▲44	71
その他事業	145 (45)			0 (0)		146 (45)	▲43 (▲17)	103 (28)
	100			0		101	▲25	75
仮計	3,098 (169)	658 (176)	107 (▲12)	87 (▲23)	353 (25)	4,304 (335)		
	2,929	481	119	110	327	3,969		
連結調整	▲809 (▲89)	▲137 (▲43)	▲78 (▲1)	▲58 (▲6)	▲5 (▲1)		▲1,089 (▲142)	
	▲720	▲93	▲76	▲52	▲3		▲947	
連結 計	2,289 (80)	521 (133)	28 (▲14)	28 (▲29)	347 (23)			3,215 (192)
	2,209	387	42	57	324			3,022

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※連結除外会社の影響額 ▲14億円 (PESANTAR)

※新規連結会社の影響額 + 12億円 (CAP OCEAN 他)

※為替換算による売上高への影響額(試算) 135億円

セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	15 (4)	8 (5)	▲21 (▲49)	0 (▲2)	4 (▲0)		7 (▲41)	2 (11)	10 (▲30)
	10	2	27	2	4		48	▲8	40
食品事業	38 (15)	10 (4)		5 (5)	10 (0)		64 (26)	▲1 (▲1)	62 (25)
	22	6		▲0	9		38	▲0	37
ファイン 事業	21 (▲4)			0 (0)			22 (▲4)	0 (▲0)	22 (▲4)
	26			0			26	0	26
物流事業	9 (1)						9 (1)	▲0 (▲0)	9 (0)
	8						8	0	8
その他 事業	4 (1)			▲0 (▲0)			4 (1)	▲0 (▲1)	4 (0)
	3			0			3	0	3
全社経費						▲13 (1)	▲13 (1)	0 (0)	▲12 (1)
						▲14	▲14	0	▲14
仮計	90 (19)	19 (10)	▲21 (▲49)	5 (3)	14 (0)	▲13 (1)	95 (▲15)		
	71	9	27	2	14	▲14	110		
連結調整	▲2 (▲3)	1 (1)	3 (8)	▲0 (▲0)	▲1 (1)	0 (▲0)		0 (8)	
	0	▲0	▲5	▲0	▲3	0		▲8	
連結 計	88 (15)	20 (11)	▲18 (▲40)	4 (2)	13 (2)	▲13 (1)			95 (▲6)
	72	8	22	1	11	▲14			102

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

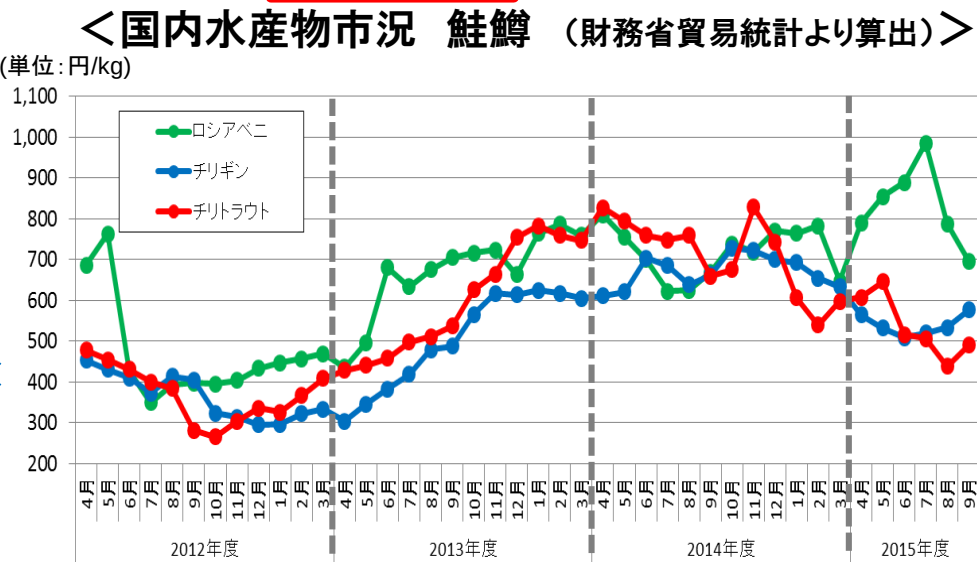
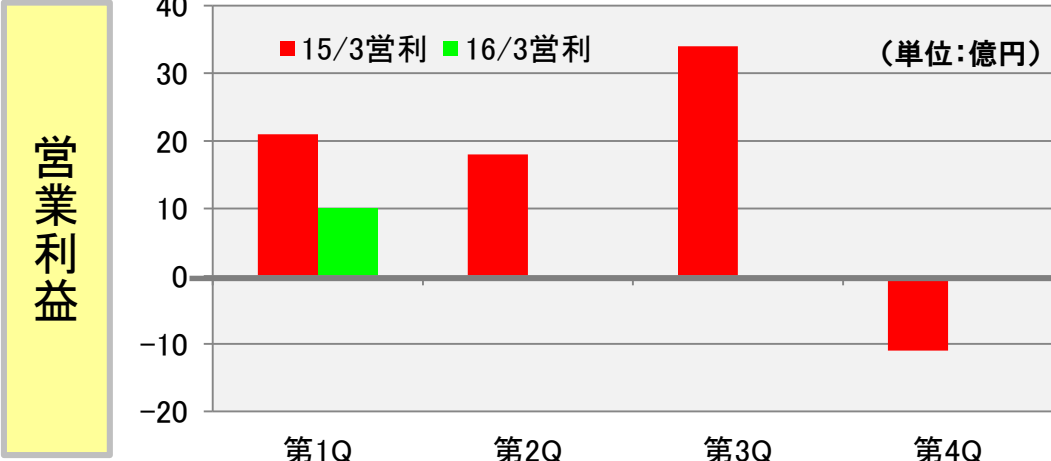
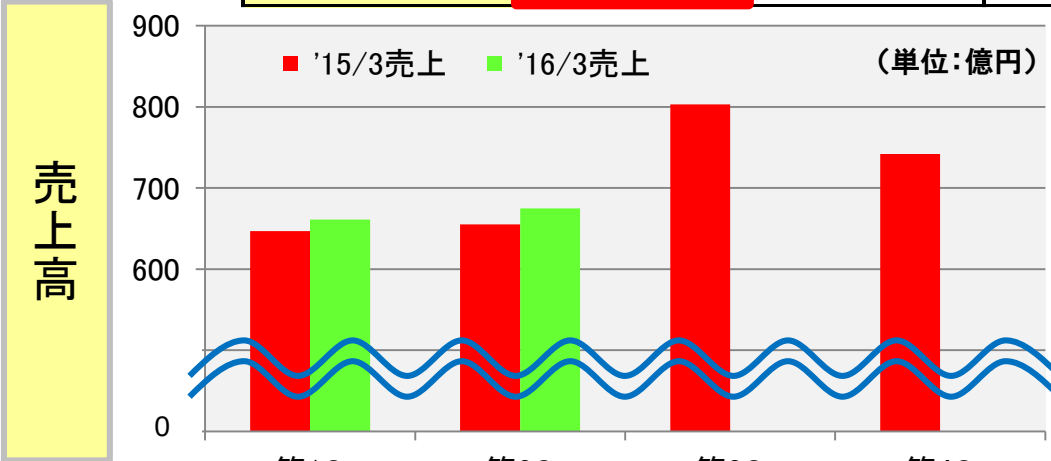
※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

※連結除外会社の影響額 ▲2億円(PESANTAR 他)

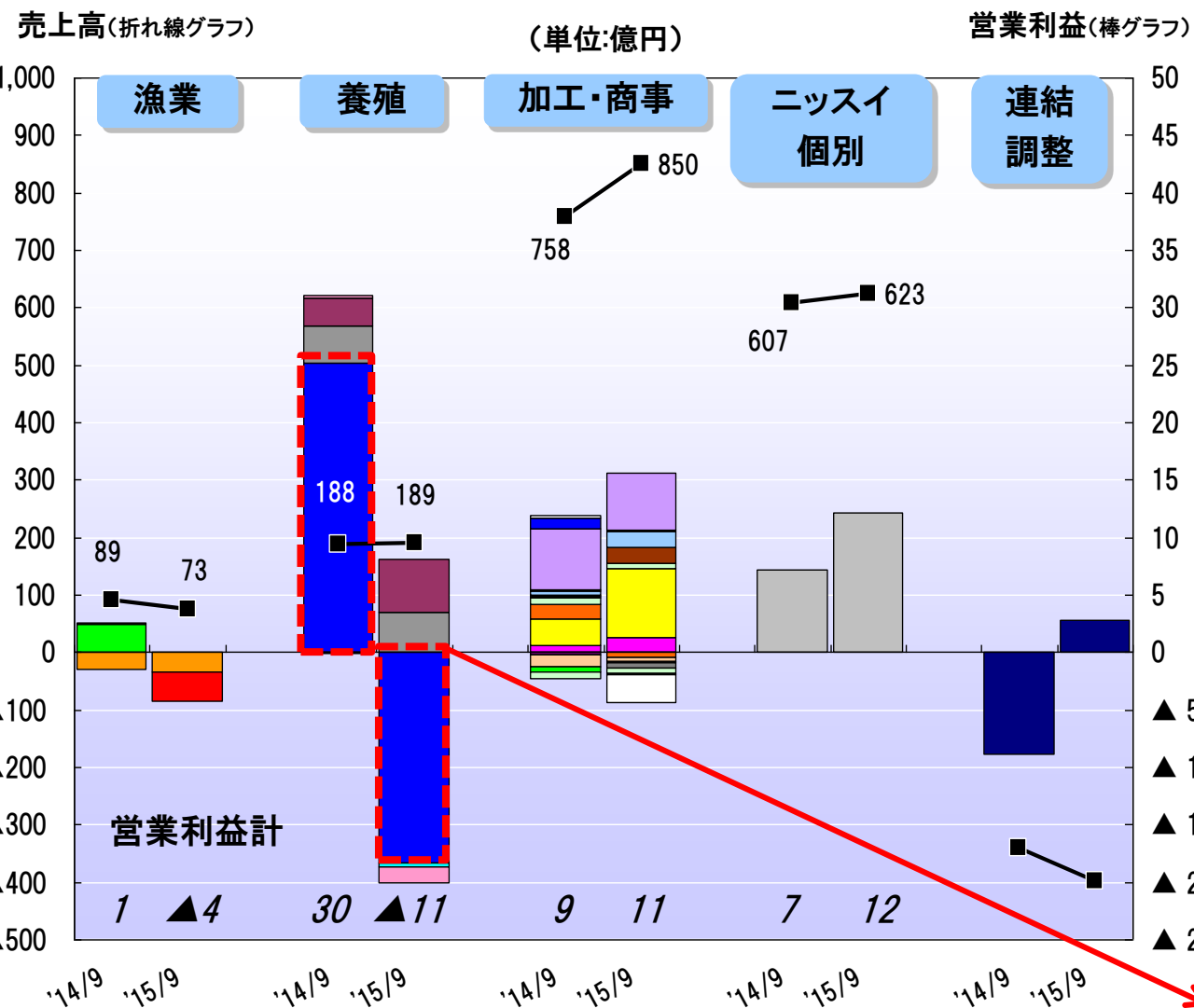
※新規連結会社の影響額 0億円(CAP OCEAN 他)

◆南米の鮭鱒養殖事業で販売価格下落に加え、在池魚評価損も拡大

(単位: 億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	1,337	1,302	34	102.7%	2,726	49.1%
営業利益	10	40	▲ 30	25.2%	60	16.8%
営業利益率	0.8%	3.1%	-	-	2.2%	-

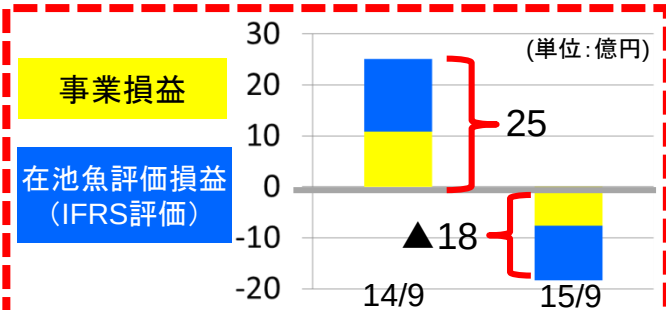


水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



主な増減要因

- 【漁業】
 - ・南米:ほき、南だらの漁獲が低調に推移し、販売数量減少
- 【養殖】
 - ・国内養殖事業
 - ぶり:「若ぶり」販売数量大幅増加するも、飼料高騰による生産コスト上昇
 - まぐろ:販売数量減少するも、販売価格は堅調に推移
 - あじ:原料買付加工品のあじ原料価格が低下したこともあり、好調に推移
 - ・チリの鮭鱒養殖事業
 - 飼料高騰や魚病の影響とともに、販売価格が下落し、在池魚評価損が拡大
- 【加工・商事】
 - ・アメリカのすけそうだら事業
 - すりみの増産に加え、販売価格も上昇
 - ・欧州:販売伸長するも、ユーロ安の影響による仕入価格上昇
- 【ニッスイ個別】
 - ・鮭鱒の販売価格が下げ止まったことに加え、すりみ・魚粉の販売価格は堅調さを維持



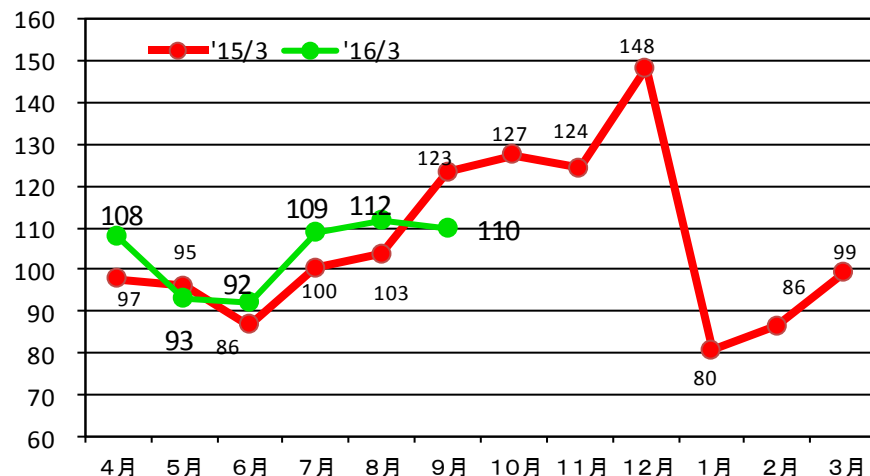
※漁業、養殖、加工・商事のグラフは連結子会社の合計を記載
※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

水産事業 ニススイ個別(前年同期比)



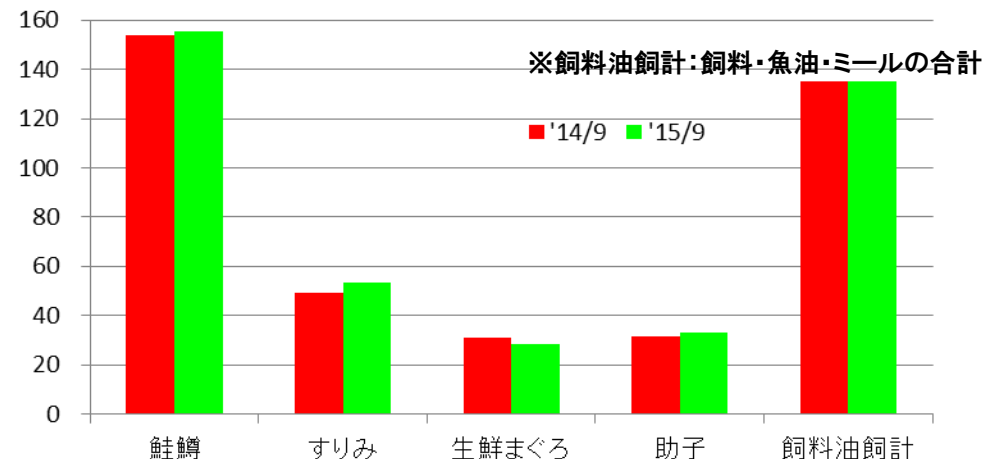
<売上高(月別)>

(単位:億円)



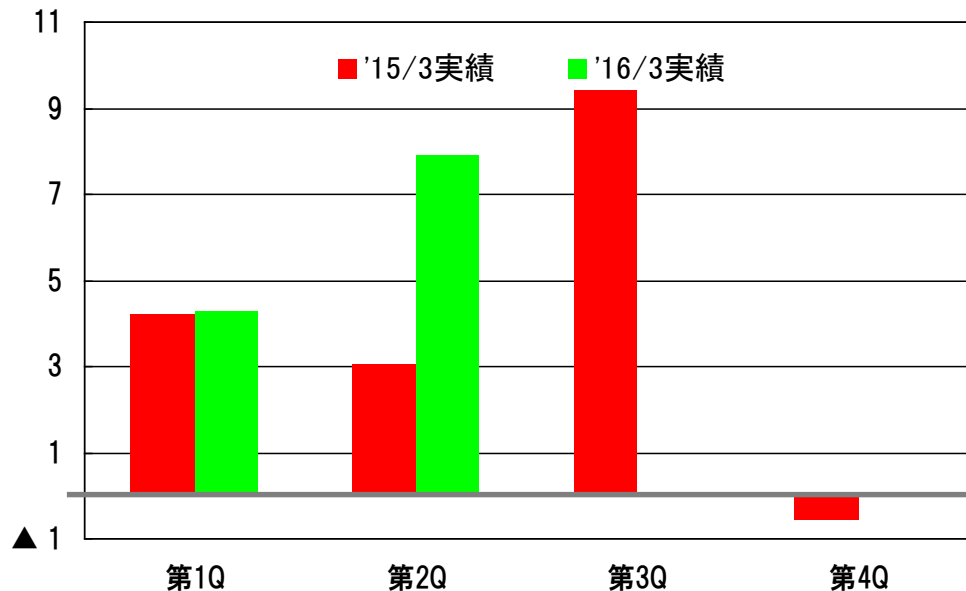
<主要魚種別 売上高(前年同期比)>

(単位:億円)



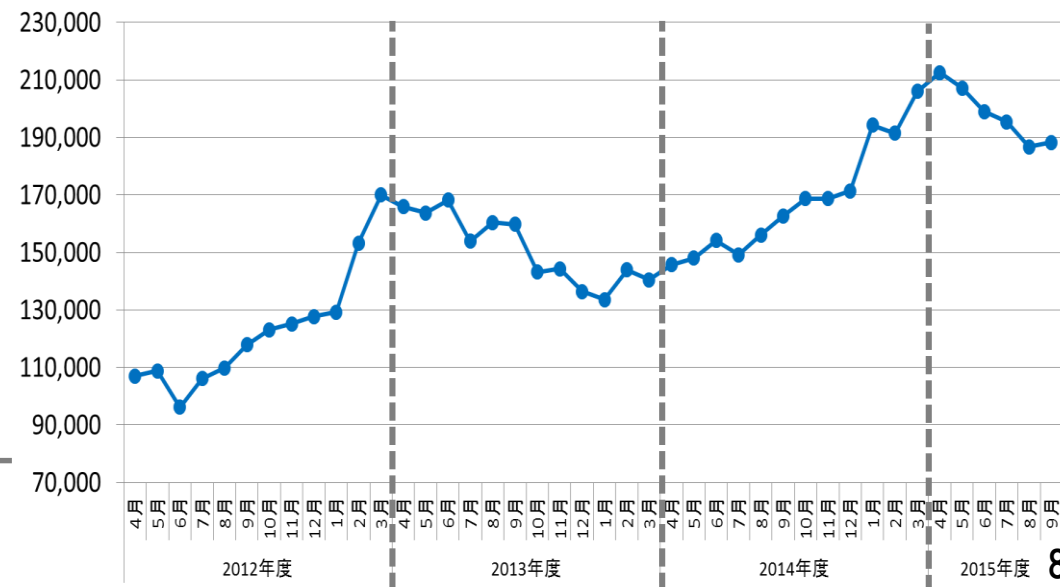
<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)



<魚粉価格動向(財務省貿易統計より算出)>

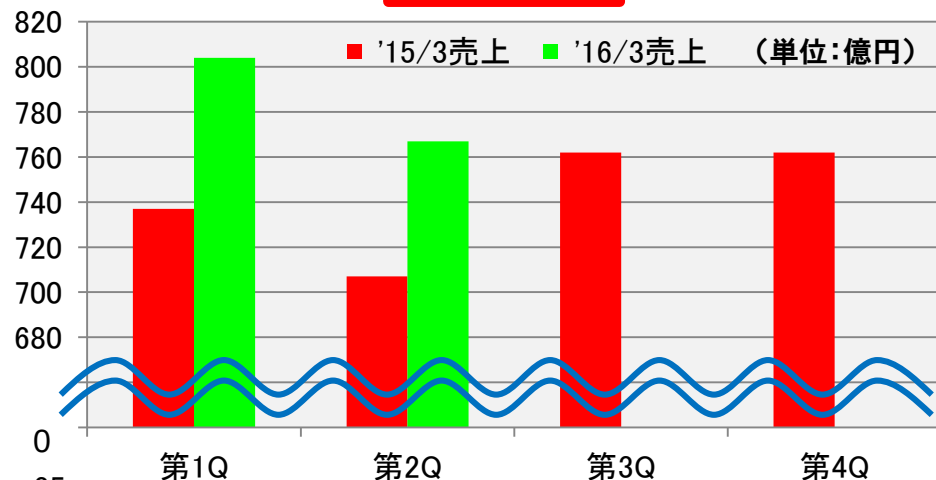
(単位:円/t)



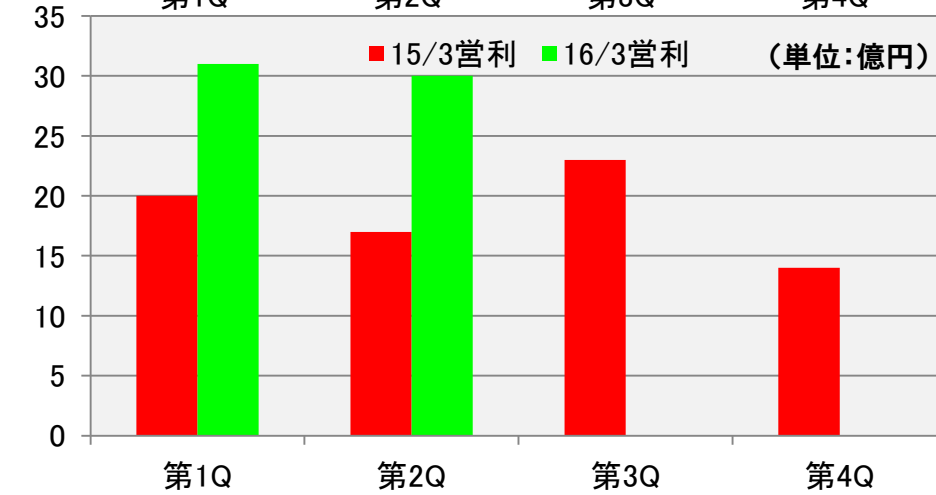
◆北米・欧州は順調に推移し、日本はニッスイ個別・グループともに売上・利益が伸長

(単位: 億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	1,571	1,444	127	108.8%	2,995	52.5%
営業利益	62	37	25	166.1%	68	92.5%
営業利益率	4.0%	2.6%	-	-	2.3%	-

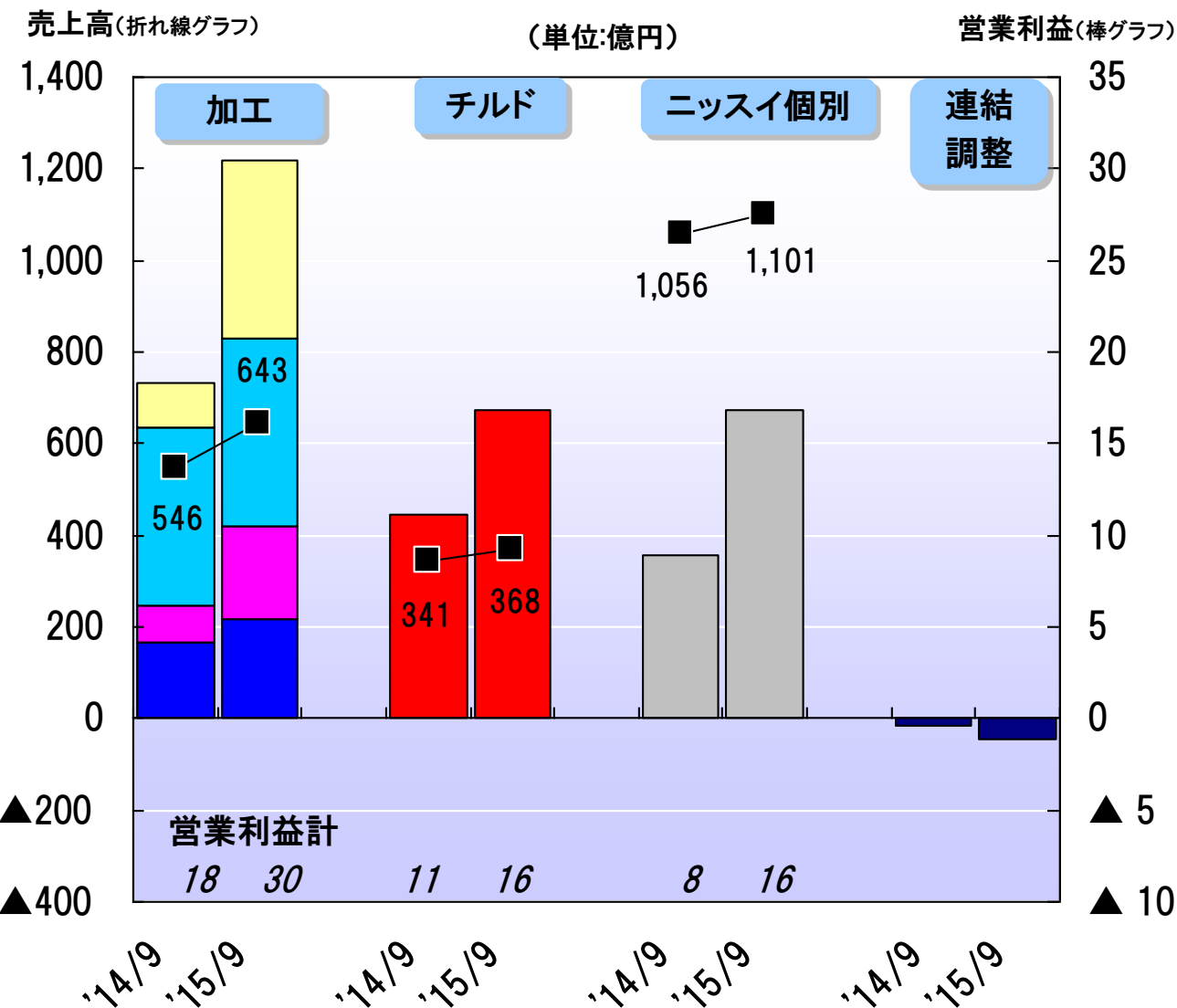
売上高



営業利益



食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



主な増減要因

【加工】

- ・北米
工場集約などにより収支改善
原料のえびの価格が下がったことに加え、大手レストランチェーン向けの販売が好調
- ・ヨーロッパ
新たに生産ラインを増強するとともに、販売単価の高いチルド製品の販売数量が増加
- ・日本
えび、白身魚の業務用食品加工事業において、原料のえびの価格が下がったこともあり、好調に推移

【チルド】

- ・チルド弁当、サラダ等の販売伸長
- ・生産工程の見直しによる生産性の向上

【ニッスイ個別】

- ・価格改定やコストダウンなどに努め、家庭用、業務用冷凍食品を中心に好調

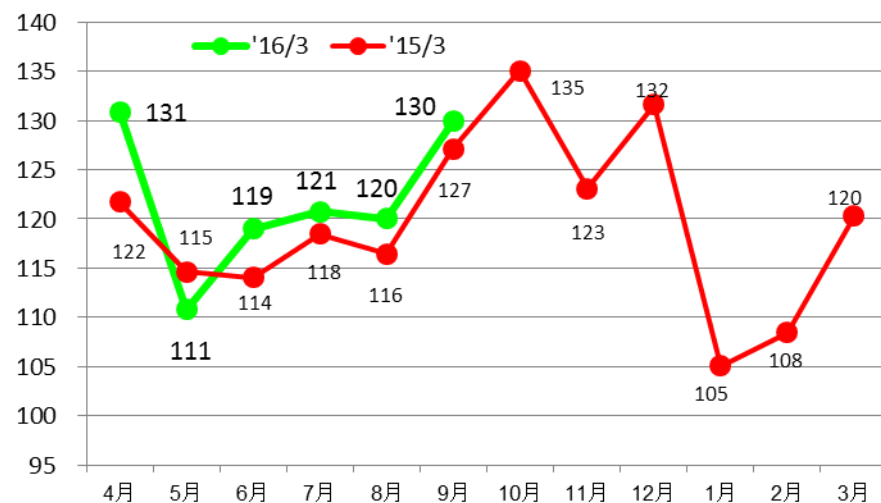
※加工、チルドのグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

食品事業 ニッスイ個別(前年同期比)



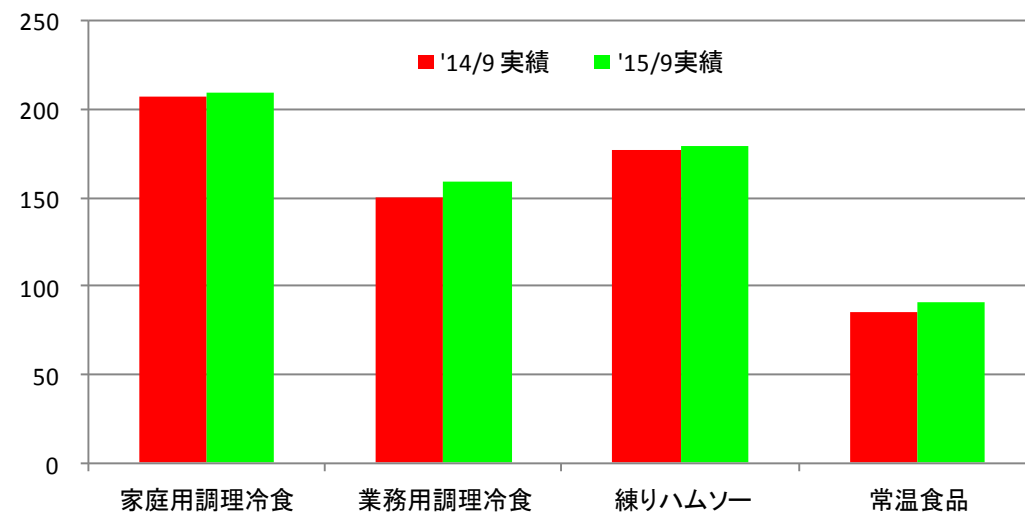
＜売上高(月別)＞

(単位:億円)



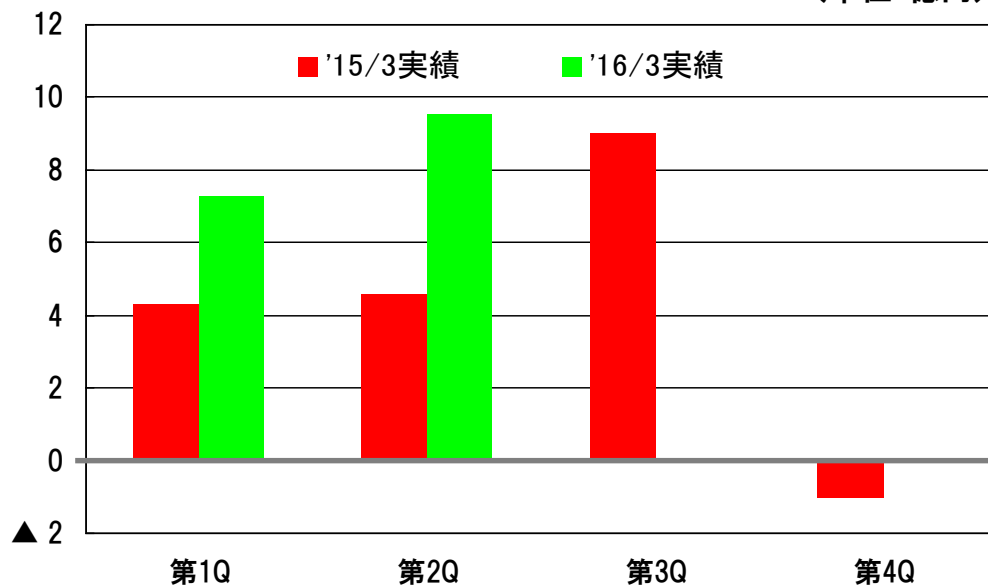
＜カテゴリー別 売上高(前年同期比)＞

(単位:億円)



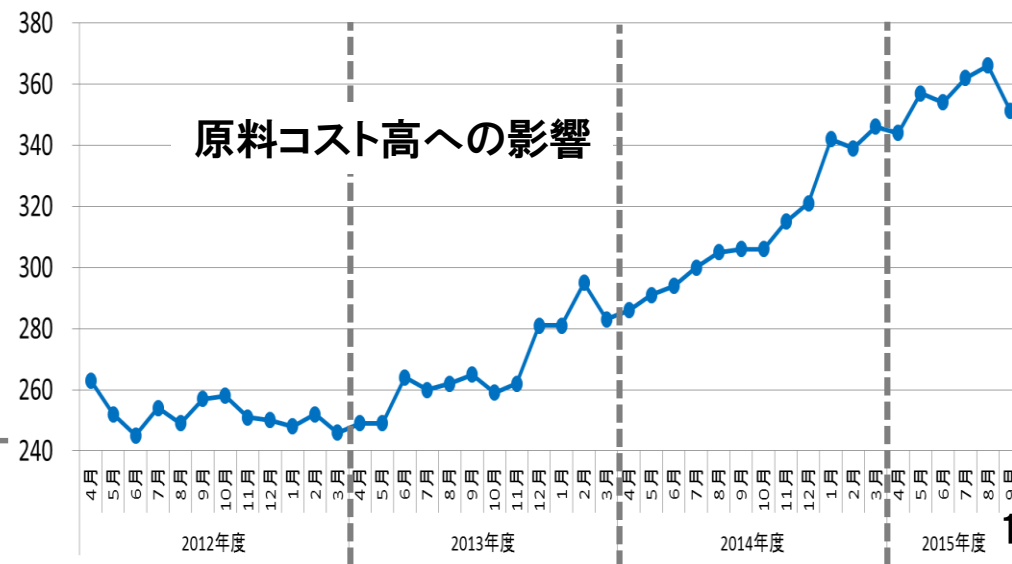
＜営業利益(四半期別)＞

(単位:億円)



＜冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)＞

(単位:円/kg)



◆後発品使用促進策等の影響により、前年からの苦戦が続く

(単位: 億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率	2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	127	128	▲ 1 98.8%	280	45.4%
営業利益	22	26	▲ 4 84.0%	44	50.7%
営業利益率	17.6%	20.7%	- -	15.7%	-

主な増減要因

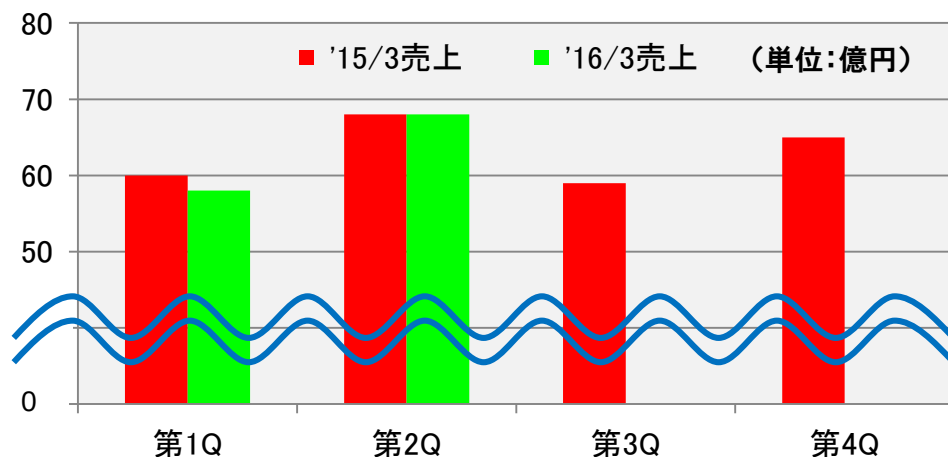
【ニッスイ個別】

- ・医薬原料
後発品使用促進策などによる販売数量の減少

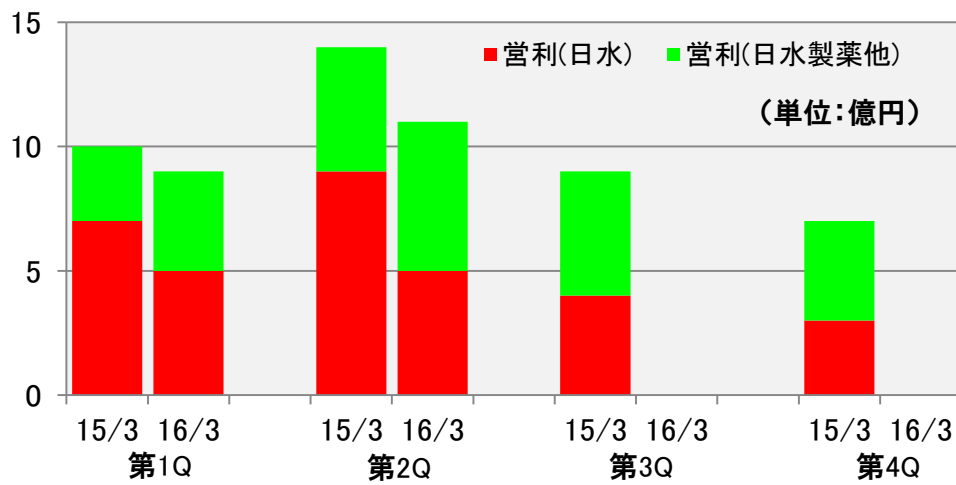
【グループ】

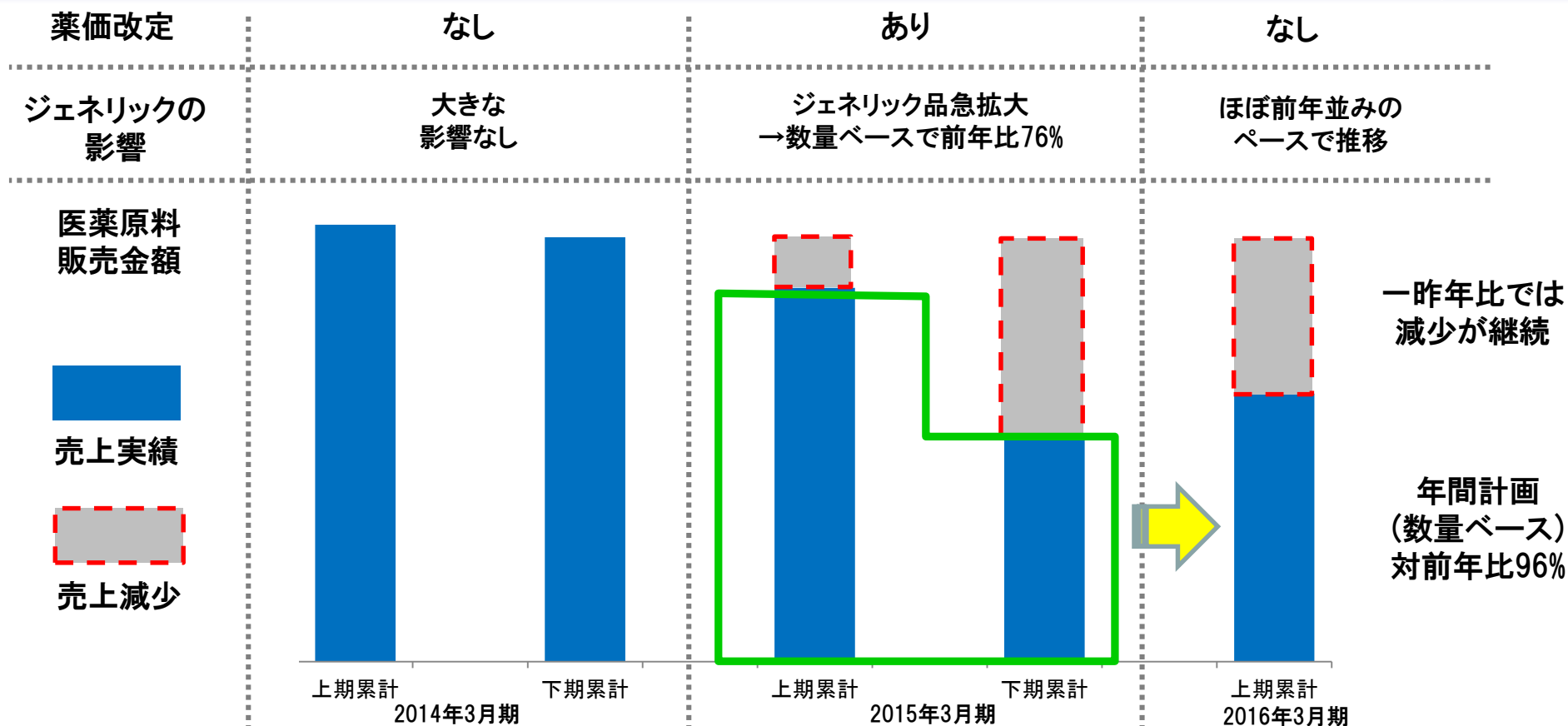
- ・臨床診断薬、産業検査薬などで販売堅調

売上高



営業利益





＜医薬原料:前年同期比 ▲約7億円減益＞
前年度のジェネリック品の伸長からシェア回復に苦戦

＜機能性食品:前年同期比 約1.5億円増益＞
休眠顧客呼び戻し(DM)実施、広告宣伝媒体の見直し

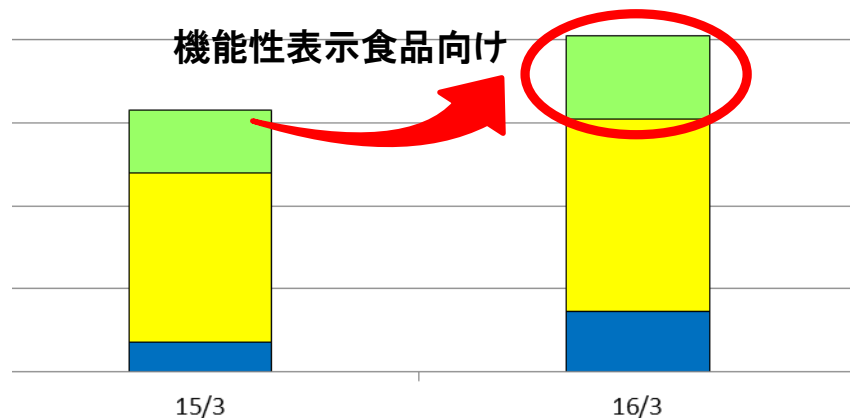
＜機能性原料:前年同期比 約1億円増益＞
EPA・DHAの原料販売増加(機能性表示食品等)
売上高は対前年同期比で約130%

＜研究開発費:前年同期比 ▲約2億円減益＞
将来の成長に向けた研究開発費の投入

他社への取組:EPA・DHAの原料販売

EPA・DHAの原料販売増加:売上高は対前年同期比で約130%

■ その他 ■ DHAサプリメント ■ EPAサプリメント



EPAに関する研究の進捗

①オーストラリア メルボルン大学

オメガ3の精神分裂症等のリスクを抑える効能に関する研究発表

(出典:2015.8.11発行 Nature Communications. Amminger, G. P. et al. Longer-term outcome in the prevention of psychotic disorders by the Vienna omega-3 study. Nat. Commun. 6:7934 doi: 10.1038/ncomms8934 (2015).)

②京都大学

オメガ3由来の脂質代謝物の一種である「レゾルビンE1」が、皮膚アレルギー反応に抑制効果を有することを世界で初めて証明 (出典:2015.10.6公表 京都大学HPより)

「海から健康 EPA life」ブランドの立ち上げ



EPA+ (エパプラス)、ファッション誌「sweet」・ファッションブランド「rich」とのトリプルコラボ品新発売



× Sweet × rich



スポーツ向けにもEPAを展開

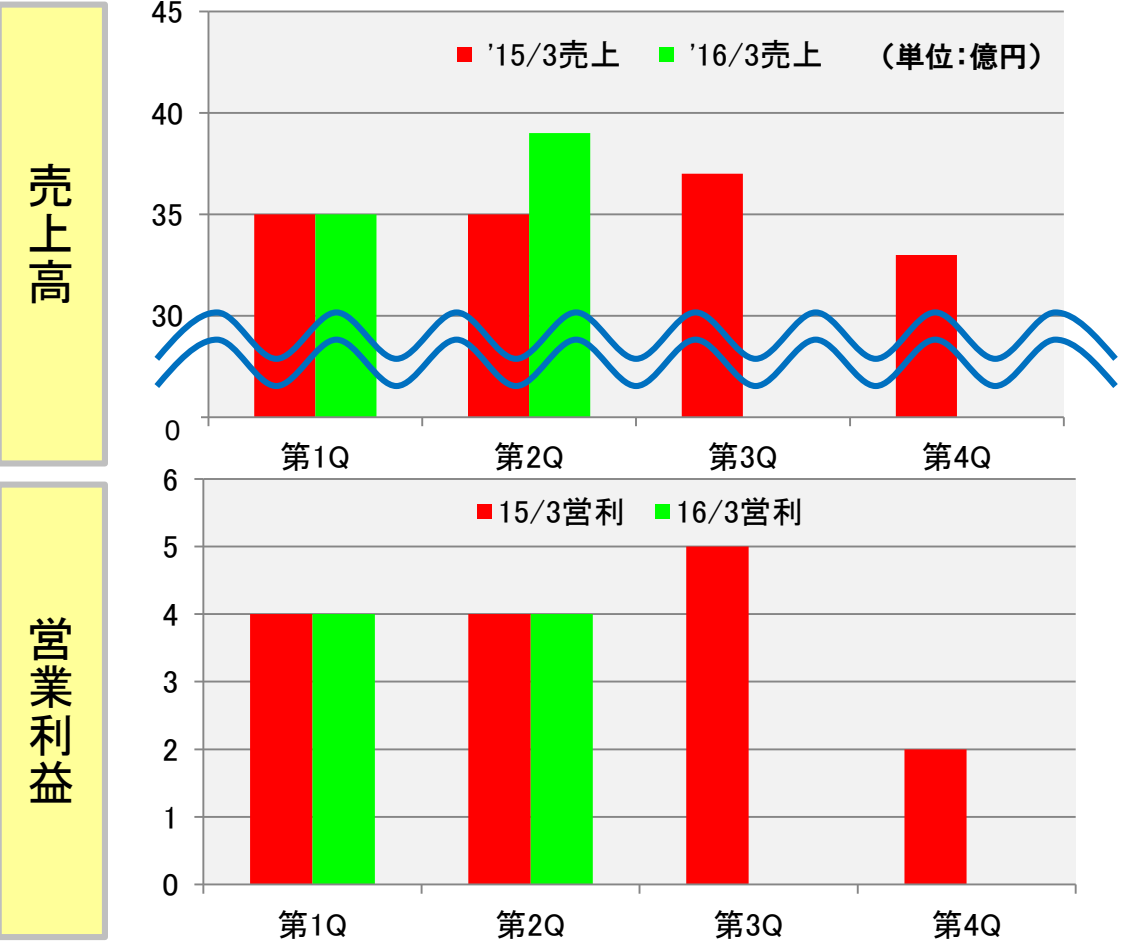


◆前年同期比でほぼ横ばいで推移

(単位: 億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	75	71	3	105.5%	152	49.7%
営業利益	9	8	0	107.0%	17	53.9%
営業利益率	12.1%	12.0%	-	-	11.2%	-

主な増減要因

- ・配送事業: 運送貨物の取扱量減少
- ・冷蔵倉庫事業: 保管料収入増加



日水物流・大阪舞洲物流センター竣工予定図

連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)

	2016年3月期 第2四半期実績	売上高比 (%)	2015年3月期 第2四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	3,215		3,022		192	6.4
売上総利益	670	20.8	648	21.4	21	3.4
販売費・一般管理費	574		545		28	
営業利益	95	3.0	102	3.4	▲6	▲6.4
営業外収益	32		29		2	
営業外費用	19		17		1	
経常利益	109	3.4	115	3.8	▲5	▲5.1
特別利益	14		3		11	
特別損失	5		12		▲6	
税金等調整前四半期純利益	118	3.7	106	3.5	11	11.0
法人税等	33		27		6	
法人税等調整額	10		14		▲4	
四半期純利益	74		64		9	
非支配株主に帰属する四半期純利益	6		5		0	
親会社株主に帰属する四半期純利益	67	2.1	58	2.0	8	15.2

主な増減要因

【営業外収益・費用】

持分法による
 投資利益 約3億円増加
 助成金収入 約4億円増加
 為替差益 約5億円減少 等

主な内訳

【特別利益・損失】

2016年3月期(当期)

- 投資有価証券売却益 約14億円
- 土地減損損失 約3億円

2015年3月期(前期)

- 急激な環境変化による養殖
まぐろの斃死による損失 約8億円

連結貸借対照表(前期末比)



流動資産 2,350 (+33)	流動負債 2,163 (+39)
	固定負債 <u>1,395</u> (▲9)
固定資産 <u>2,304</u> (+3)	純資産 <u>1,096</u> (+5)
総資産 <u>4,655</u> (+36)	うち自己資本 <u>911</u> (+9) 自己資本比率 19.6%

(単位:億円)

主な増減要因					
資産	+36	流動資産	+33	受取手形及び売掛金 仕掛品	+24 +10
		固定資産	+3	有形固定資産 無形固定資産 投資その他の資産	+27 ▲5 ▲19
負債	+30	流動負債	+39	支払手形及び買掛金 未払費用	+48 ▲3
		固定負債	▲9	長期借入金 繰延税金負債	▲1 ▲10
		純資産	+5	利益剰余金 その他有価証券評価差額金 繰延ヘッジ損益 為替換算調整勘定 退職給付に係る調整累計額 非支配株主持分	+67 ▲23 ▲8 ▲21 ▲5 ▲3

自己資本比率 '15/3 19.5% → '15/9 19.6%

()内の数字は前期末比増減

連結キャッシュフロー(前年同期比)



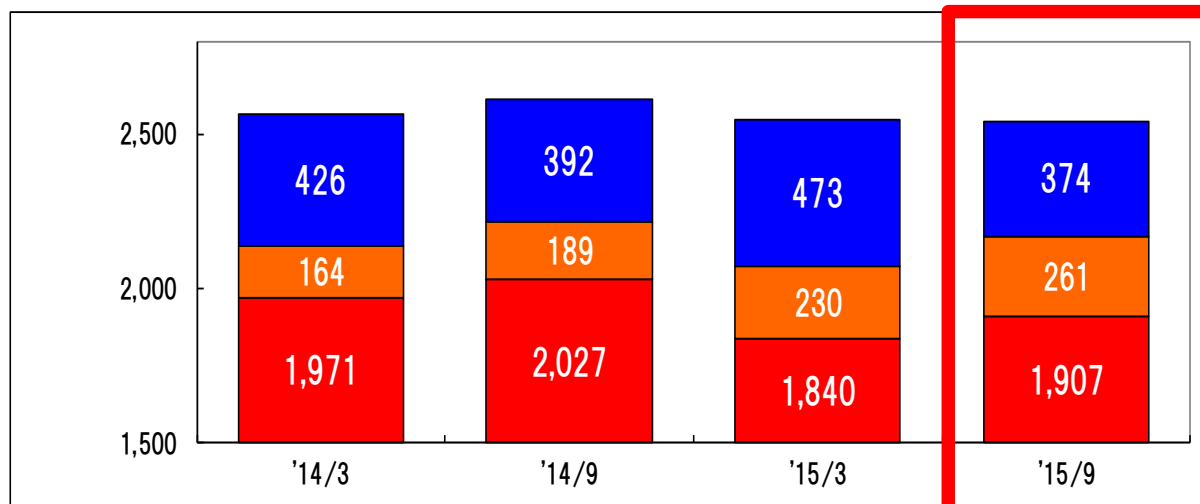
(単位: 億円)

	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	増減
・ 税金等調整前四半期純利益	118	106	11
・ 減価償却費 (のれん償却含む)	83	81	1
・ 運転資本	▲ 22	▲ 147	125
・ 法人税等の支払額	▲ 19	▲ 31	12
・ その他	▲ 63	▲ 3	▲ 60
営業活動によるCF	96	5	91
・ 設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 93	▲ 61	▲ 31
・ その他	▲ 61	▲ 28	▲ 32
投資活動によるCF	▲ 154	▲ 90	▲ 64
・ 短期借入金の増減額	▲ 26	74	▲ 100
・ 長期借入金の増減額	29	▲ 13	43
・ その他	▲ 13	▲ 4	▲ 8
財務活動によるCF	▲ 9	56	▲ 66

連結借入金・純金利負担

(単位:億円)

- 海外関係会社
- 国内関係会社
- ニッスイ個別



前期末
比増減

▲99

+30

+66

借入金合計	2,561	2,608	2,543	2,542	▲1
短期借入金	1,278	1,364	1,399	1,399	+0
長期借入金	1,282	1,244	1,143	1,142	▲1
短期借入金平均利率	0.7%	0.7%	0.6%	0.6%	▲0.1%
長期借入金平均利率	1.4%	1.4%	1.3%	1.3%	▲0.0%
純金利負担	16.9	6.9	16.2	6.8	
対営業利益純金利負担率	12%	7%	9%	7%	
支払利息	32.7	14.7	30.3	13.6	
受取利息	4.7	1.8	3.9	1.6	
受取配当金	11.0	6.0	10.1	5.0	
為替レート(US\$1)	@105.39(12月末)	@101.36(6月末)	@120.55(12月末)	@122.45(6月末)	

※為替レート換算による影響額

前期末比
前年同期比

▲2億円
+54億円

個別損益計算書(前年同期比)



(単位:億円)

	2016年3月期 第2四半期実績	売上高比 (%)	2015年3月期 第2四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	1,794		1,736		58	3.4
売上総利益	344	19.2	336	19.4	8	2.5
販売費・一般管理費	317		318		▲0	
営業利益	27	1.5	18	1.1	8	47.6
営業外収益	12		15		▲3	
営業外費用	13		11		1	
経常利益	26	1.5	22	1.3	3	16.4
特別利益	14		0		13	
特別損失	3		2		0	
税引前当期純利益	37	2.1	20	1.2	16	80.5
法人税等	4		1		2	
法人税等調整額	5		7		▲1	
当期純利益	27	1.5	11	0.7	15	137.4

主な増減要因

【販売費・一般管理費】

販売費増加
管理費減少
広告宣伝費減少

約3億円
約1億円
約1億円

主な内訳

【特別利益・損失】

2016年3月期(当期)

- 投資有価証券売却益
- 減損損失

約14億円
約2億円

第2四半期決算は為替や国内の魚価が年初想定に比べ今のところ安定しており、全体では概ね順調に推移しておりますが、特に南米における鮭鱒の養殖事業の動向が不透明であり、年間の見通しについては変更しておりません。

（単位：億円）	2016年3月期 第2四半期実績	売上高比	2016年3月期 上期公表値	売上高比	進捗率	2016年3月期 年間公表値	売上高比	進捗率
売上高	3,215		3,130		102.7%	6,360		50.6%
営業利益	95	3.0%	75	2.4%	127.9%	170	2.7%	56.4%
経常利益	109	3.4%	83	2.7%	131.7%	185	2.9%	59.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	67	2.1%	45	1.4%	151.0%	105	1.7%	64.7%

主要在外会社の 為替換算レート	2016年3月期 第2四半期実績 (6月末レート)	2016年3月期 計画レート
米ドル	122.5円	120.0円
ユーロ	137.2円	146.0円
デンマーククローネ	18.4円	20.0円

下期の主要なリスクと打ち手

【想定リスク】

- ①水産事業－鮭鱒市況の変動リスクと、チリ鮭鱒養殖事業への影響
- ②食品事業－急速な為替変動リスクと、すりみコストアップの影響継続
- ③ファイン事業－後発品使用促進策の影響継続とリカバリー策の進捗

主要な打ち手

<水産事業>

- ・鮭鱒他市況動向注視して、調達から在庫コントロールまで管理を徹底し、利益確保に努める

<食品事業>

- ・原料高騰の商品については、生産効率改善により収益性を高める
- ・為替や原料価格の状況に応じた価格対応も検討

<ファイン事業>

- ・医薬原料:EPAの効能の周知とシェア確保に向けた販売活動の強化
- ・機能性表示食品メーカー向けEPA・DHAの原料販売の拡大

<機能性表示食品>

- ・「機能性表示食品制度」を活用した、EPA・DHAを含む加工食品のブランド「海から、健康EPA life(エパライフ)」の展開

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2015年11月5日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR室広報IR課

03-6206-7044

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>



【訂正前】



2016年3月期 第2四半期決算 決算短信補足資料

2015年11月5日
日本水産株式会社

2016年3月期 第2四半期決算増減

◆食品事業が大幅に増収・増益。水産事業は増収・減益。ファイン事業は若干の減益。

(単位:億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率(%)		2016年3月期 年間見通し	年間見通しに対 する進捗率(%)
売上高	3,215	3,022	192	106.4%	6,360	50.6%
水産事業	1,337	1,302	34	102.7%	2,726	49.1%
食品事業	1,571	1,444	127	108.8%	2,995	52.5%
ファインケミカル事業	127	128	▲ 1	98.8%	280	45.4%
物流事業	75	71	3	105.5%	152	49.7%
その他	103	75	28	137.1%	207	50.0%
営業利益	95	102	▲ 6	93.6%	170	56.4%
水産事業	10	40	▲ 30	25.2%	60	16.8%
食品事業	62	37	25	166.1%	68	92.5%
ファインケミカル事業	22	26	▲ 4	84.0%	44	50.7%
物流事業	9	8	0	107.0%	17	53.9%
その他	4	3	0	110.5%	5	82.3%
全社経費	▲ 12	▲ 14	1	88.7%	▲ 24	52.9%
経常利益	109	115	▲ 5	94.9%	185	59.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	67	58	8	115.2%	105	64.7%
EPS(1株当たり純利益)	24.60円	21.35円	-	-	38.01円	-

◆前年同期比で増収ではあるが、営業利益は若干の減益

海外は北米が順調に推移する一方、南米は減益幅が拡大。
国内は食品事業の利益が伸長し、水産事業も堅調に推移。

【水産事業】 増収・減益

国内：鮭・鱒は販売価格が下げ止まり、すりみおよび魚油・魚粉は販売価格が堅調。
海外：北米ですりみの販売数量が増加したものの、南米の鮭・鱒養殖事業で飼料の高騰や魚病の影響とともに、販売価格下落と在池魚評価損拡大があり、大幅に収支悪化。

【食品事業】 増収・増益

国内：すりみなどの原材料コスト高騰や、円安による加工品の調達コスト上昇があったものの、価格改定やコストダウンに努め、家庭用・業務用冷凍食品を中心に好調に推移。チルド事業も好調を維持。
海外：北米、欧州が売上・利益とも伸長。

【ファイン事業】 減収・減益

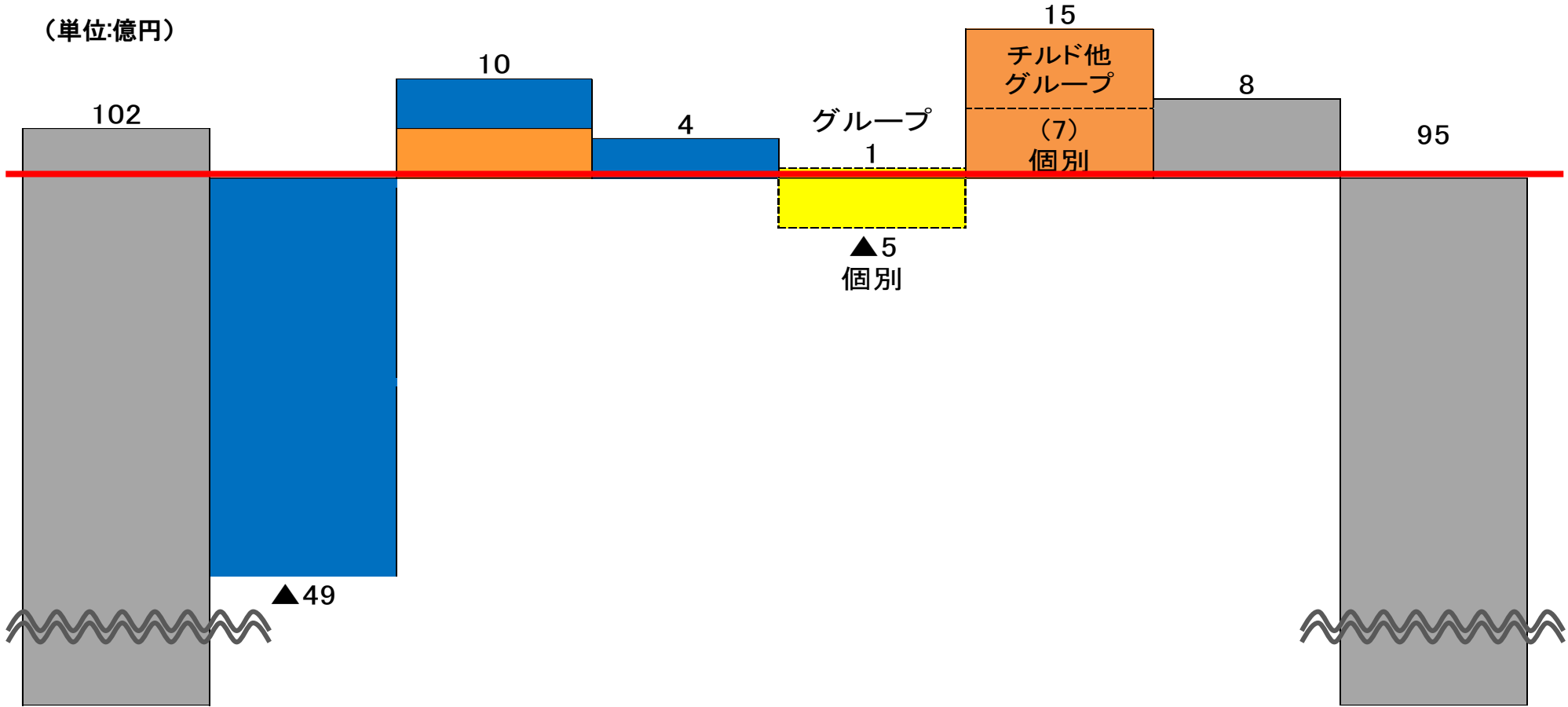
ニッセイ個別は、後発医薬品使用促進策による医薬原料の販売数量減少が続く。
グループは、臨床診断薬、産業検査薬などで販売が堅調。

主な営業利益増減要因



水産 食品 ファイン

(単位:億円)



(主な増減要因)

2015年3月期 第2四半期 営業利益	海外		国内			連結調整 の増加	2016年3月期 第2四半期 営業利益
	<南米> 鮭鱒の販売価格下落と在池魚評価損の拡大等	<北米> 冷凍食品事業順調、すりみの販売数量増加等	<個別/水産> すりみ・魚粉の販売価格が堅調	<ファイン> 後発品使用促進策による販売数量減少等	<食品> ニッスイ個別は家庭用・業務用冷凍食品が好調、チルド事業も順調		

セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	1,035 (27)	307 (104)	107 (▲12)	45 (▲35)	241 (9)	1,736 (92)	▲399 (▲57)	1,337 (34)
	1,008	203	119	81	231	1,644	▲341	1,302
食品事業	1,643 (74)	351 (72)		39 (12)	111 (15)	2,145 (174)	▲574 (▲47)	1,571 (127)
	1,569	278		27	95	1,971	▲526	1,444
ファイン事業	136 (1)			1 (0)		138 (1)	▲11 (▲2)	127 (▲1)
	135			1		136	▲8	128
物流事業	137 (21)					137 (21)	▲61 (▲17)	75 (3)
	115					115	▲44	71
その他事業	145 (45)			0 (0)		146 (45)	▲43 (▲17)	103 (28)
	100			0		101	▲25	75
仮計	3,098 (169)	658 (176)	107 (▲12)	87 (▲23)	353 (25)	4,304 (335)		
	2,929	481	119	110	327	3,969		
連結調整	▲809 (▲89)	▲137 (▲43)	▲78 (▲1)	▲58 (▲6)	▲5 (▲1)		▲1,089 (▲142)	
	▲720	▲93	▲76	▲52	▲3		▲947	
連結 計	2,289 (80)	521 (133)	28 (▲14)	28 (▲29)	347 (23)			3,215 (192)
	2,209	387	42	57	324			3,022

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※連結除外会社の影響額 ▲14億円 (PESANTAR)

※新規連結会社の影響額 + 12億円 (CAP OCEAN 他)

※為替換算による売上高への影響額(試算) 135億円

セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	15 (4)	8 (5)	▲21 (▲49)	0 (▲2)	4 (▲0)		7 (▲41)	2 (11)	10 (▲30)
	10	2	27	2	4		48	▲8	40
食品事業	38 (15)	10 (4)		5 (5)	10 (0)		64 (26)	▲1 (▲1)	62 (25)
	22	6		▲0	9		38	▲0	37
ファイン 事業	21 (▲4)			0 (0)			22 (▲4)	0 (▲0)	22 (▲4)
	26			0			26	0	26
物流事業	9 (1)						9 (1)	▲0 (▲0)	9 (0)
	8						8	0	8
その他 事業	4 (1)			▲0 (▲0)			4 (1)	▲0 (▲1)	4 (0)
	3			0			3	0	3
全社経費						▲13 (1)	▲13 (1)	0 (0)	▲12 (1)
						▲14	▲14	0	▲14
仮計	90 (19)	19 (10)	▲21 (▲49)	5 (3)	14 (0)	▲13 (1)	95 (▲15)		
	71	9	27	2	14	▲14	110		
連結調整	▲2 (▲3)	1 (1)	3 (8)	▲0 (▲0)	▲1 (1)	0 (▲0)		0 (8)	
	0	▲0	▲5	▲0	▲3	0		▲8	
連結 計	88 (15)	20 (11)	▲18 (▲40)	4 (2)	13 (2)	▲13 (1)			95 (▲6)
	72	8	22	1	11	▲14			102

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

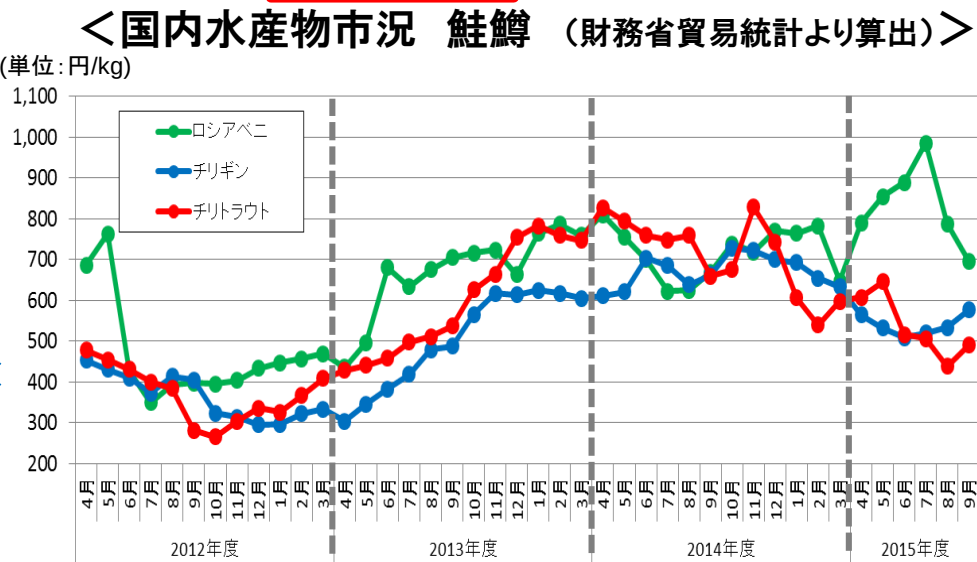
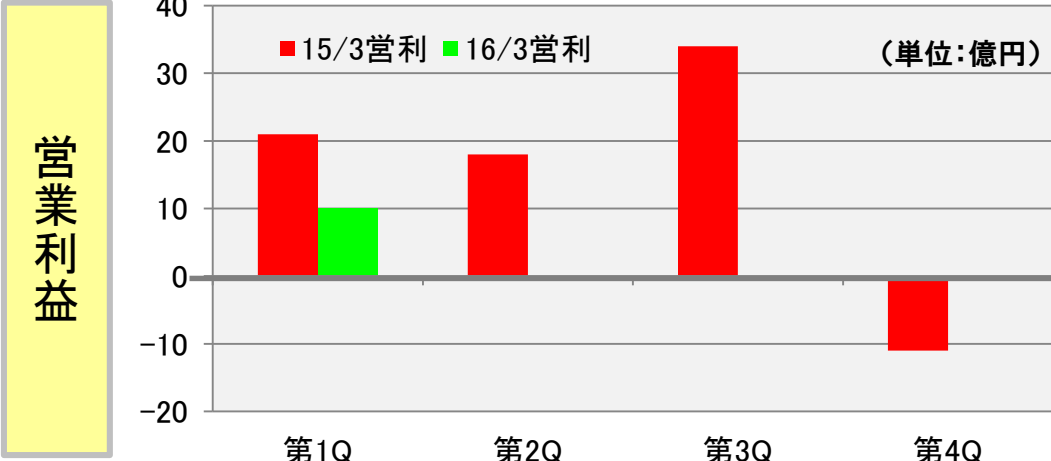
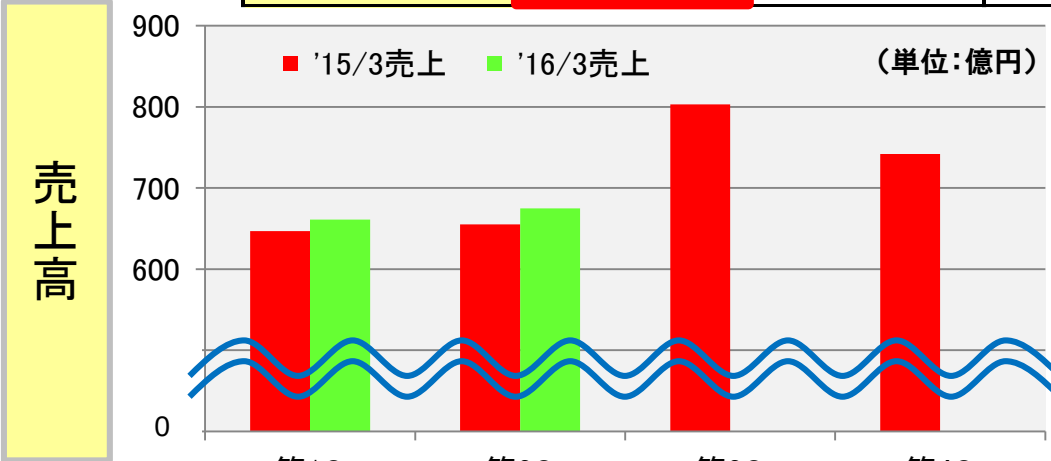
※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

※連結除外会社の影響額 ▲2億円(PESANTAR 他)

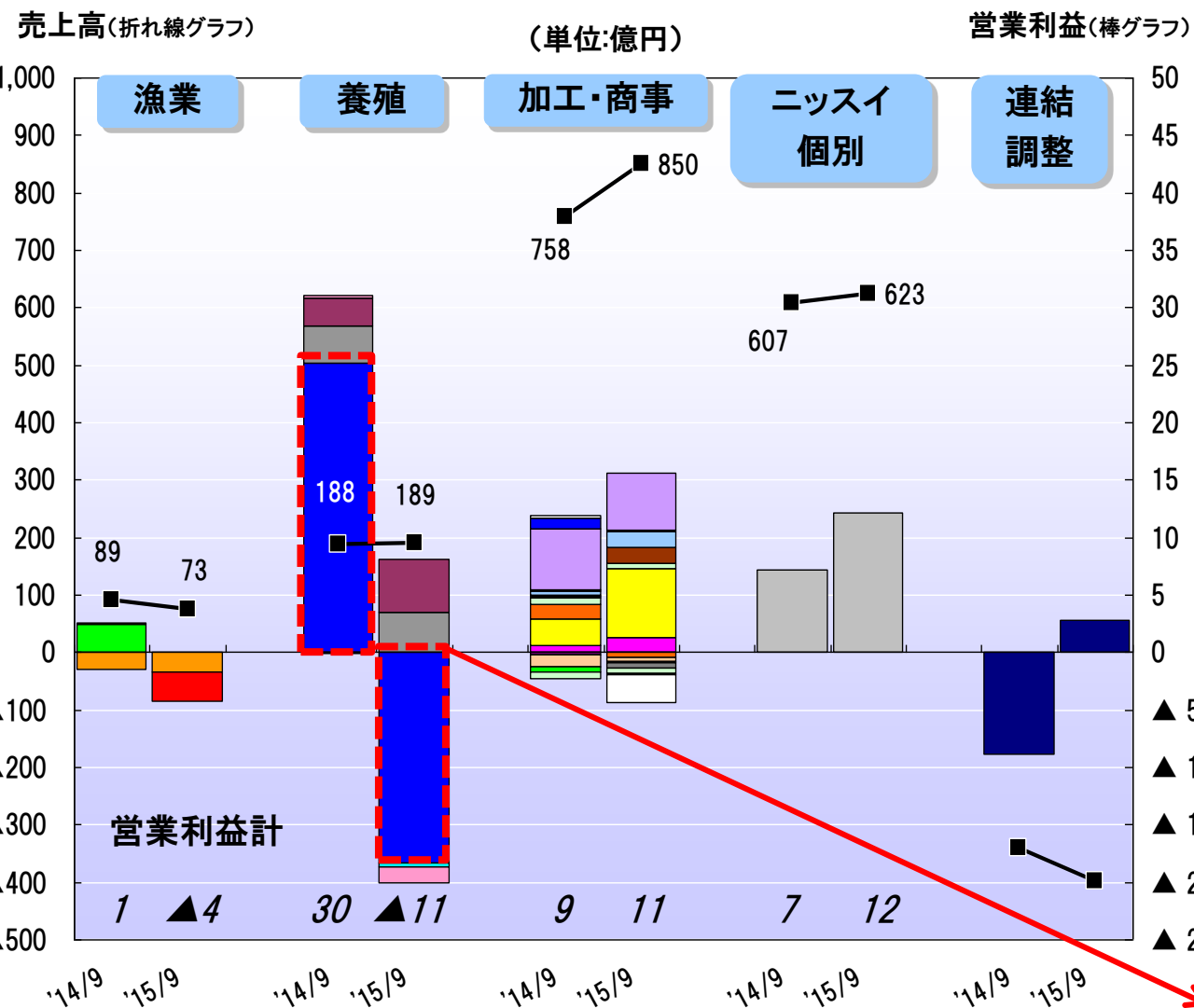
※新規連結会社の影響額 0億円(CAP OCEAN 他)

◆南米の鮭鱒養殖事業で販売価格下落に加え、在池魚評価損も拡大

(単位: 億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	1,337	1,302	34	102.7%	2,726	49.1%
営業利益	10	40	▲ 30	25.2%	60	16.8%
営業利益率	0.8%	3.1%	-	-	2.2%	-



水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



主な増減要因

【漁業】

- ・南米:ほき、南だらの漁獲が低調に推移し、販売数量減少

【養殖】

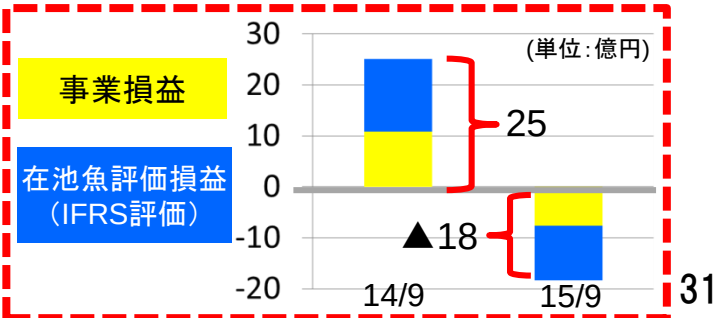
- ・国内養殖事業
 - ぶり:「若ぶり」販売数量大幅増加するも、飼料高騰による生産コスト上昇
 - まぐろ:販売数量減少するも、販売価格は堅調に推移
 - あじ:原料買付加工品のあじ原料価格が低下したこともあり、好調に推移
- ・チリの鮭鱒養殖事業
 - 飼料高騰や魚病の影響とともに、販売価格が下落し、在池魚評価損が拡大

【加工・商事】

- ・アメリカのすけそうだら事業
 - すりみの増産に加え、販売価格も上昇
- ・欧州:販売伸長するも、ユーロ安の影響による仕入価格上昇

【ニッスイ個別】

- ・鮭鱒の販売価格が下げ止まったことに加え、すりみ・魚粉の販売価格は堅調さを維持



※漁業、養殖、加工・商事のグラフは連結子会社の合計を記載

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

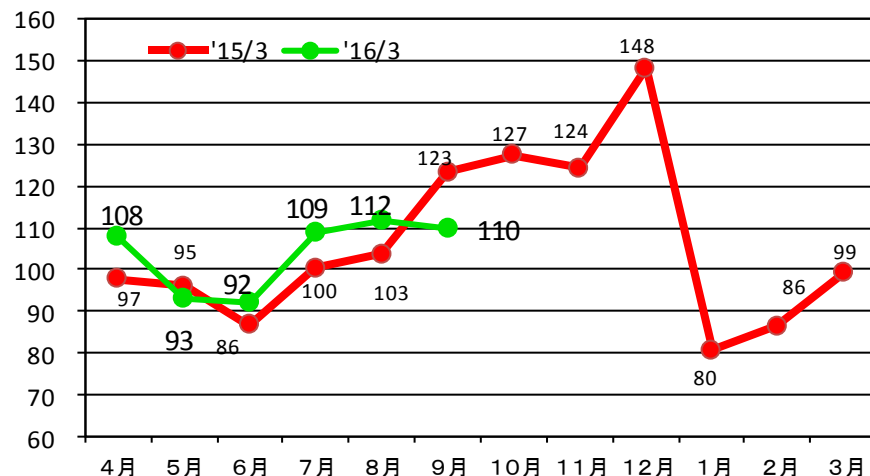
※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

水産事業 ニススイ個別(前年同期比)



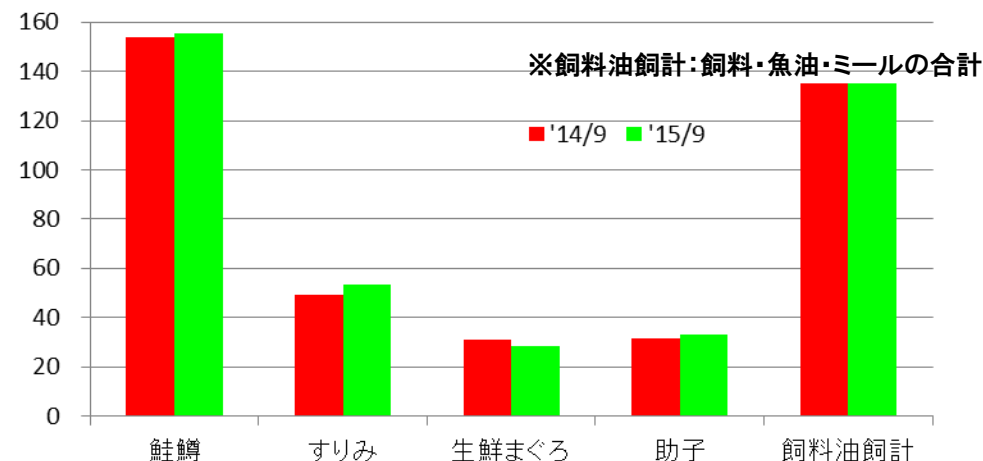
<売上高(月別)>

(単位:億円)



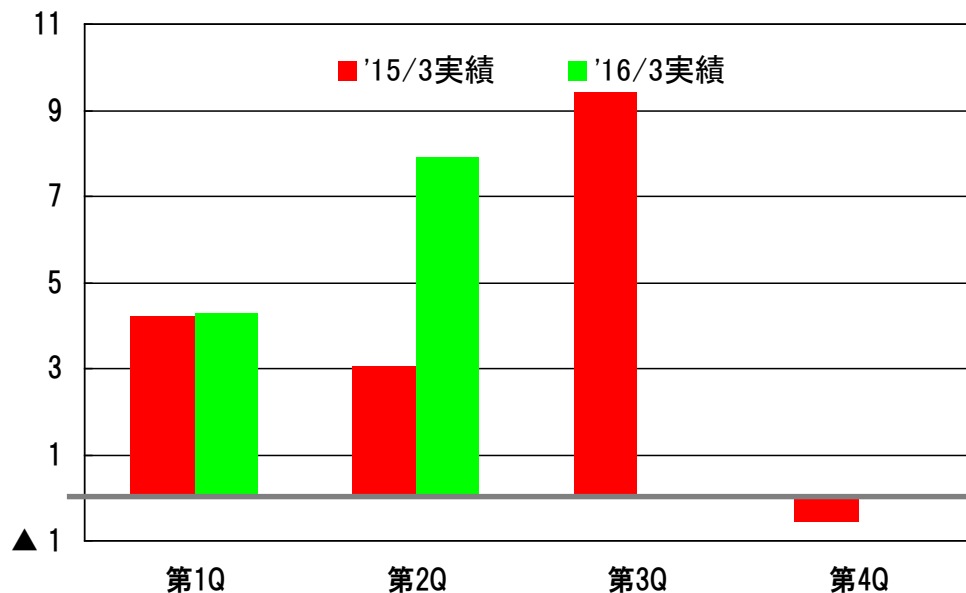
<主要魚種別 売上高(前年同期比)>

(単位:億円)



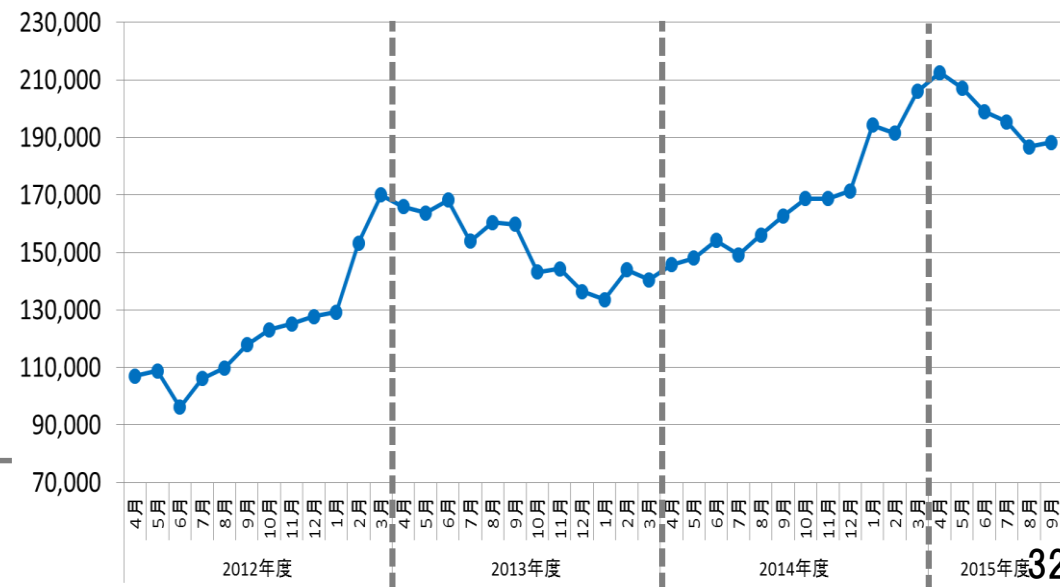
<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)



<魚粉価格動向(財務省貿易統計より算出)>

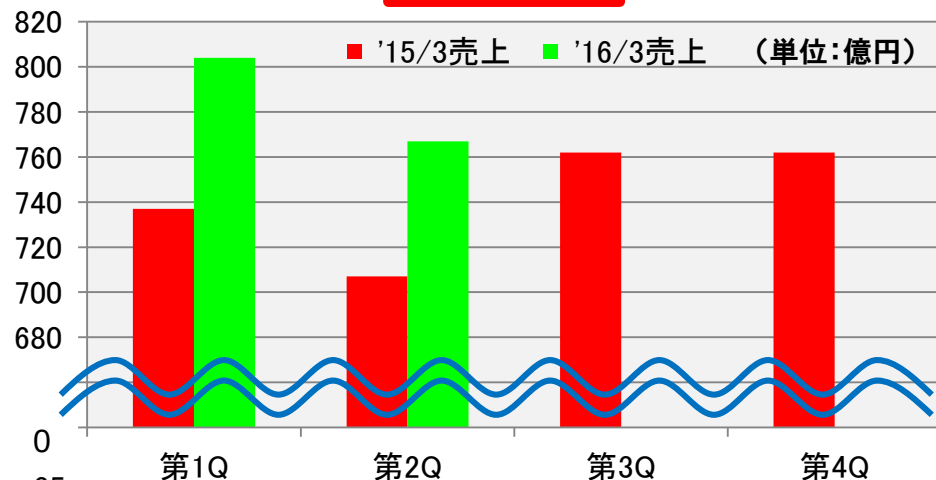
(単位:円/t)



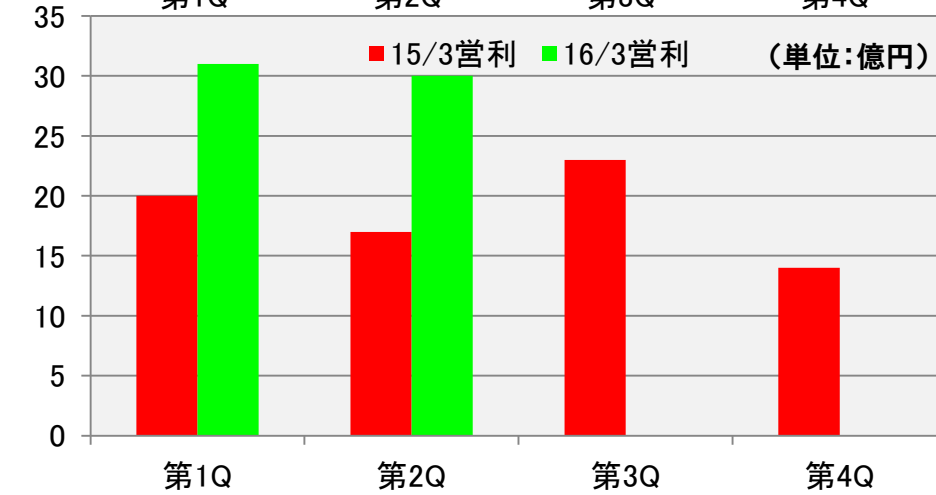
◆北米・欧州は順調に推移し、日本はニッスイ個別・グループともに売上・利益が伸長

(単位: 億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	1,571	1,444	127	108.8%	2,995	52.5%
営業利益	62	37	25	166.1%	68	92.5%
営業利益率	4.0%	2.6%	-	-	2.3%	-

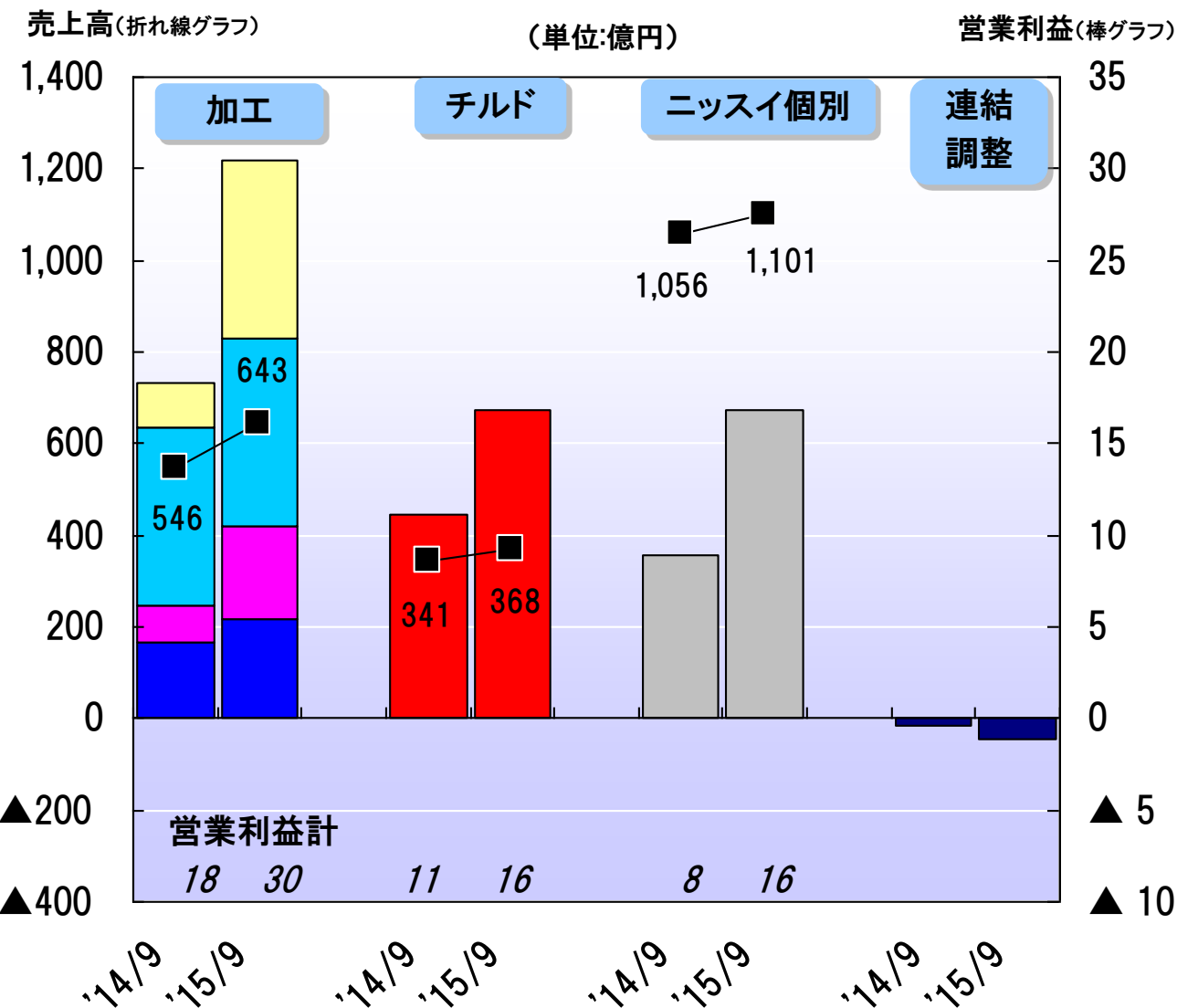
売上高



営業利益



食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



主な増減要因

【加工】

- ・北米
工場集約などにより収支改善
原料のえびの価格が下がったことに加え、大手レストランチェーン向けの販売が好調
- ・ヨーロッパ
新たに生産ラインを増強するとともに、販売単価の高いチルド製品の販売数量が増加
- ・日本
えび、白身魚の業務用食品加工事業において、原料のえびの価格が下がったこともあり、好調に推移

【チルド】

- ・チルド弁当、サラダ等の販売伸長
- ・生産工程の見直しによる生産性の向上

【ニッスイ個別】

- ・価格改定やコストダウンなどに努め、家庭用、業務用冷凍食品を中心に好調

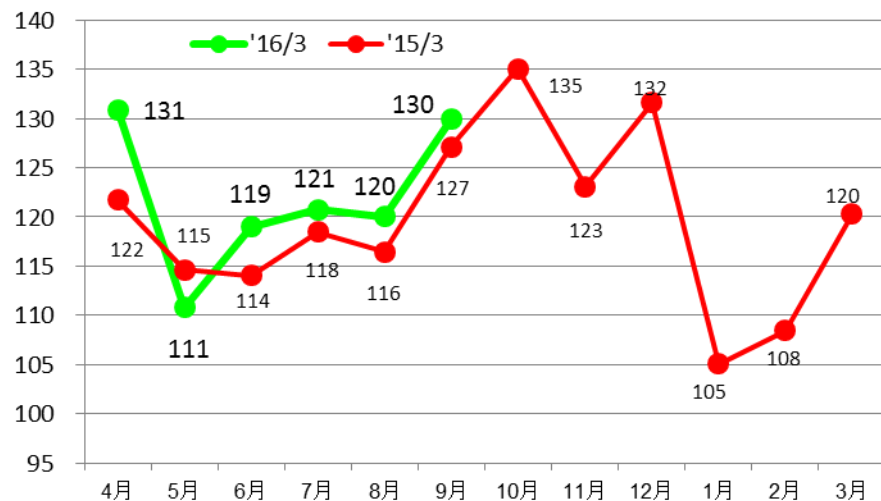
※加工、チルドのグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

食品事業 ニススイ個別(前年同期比)



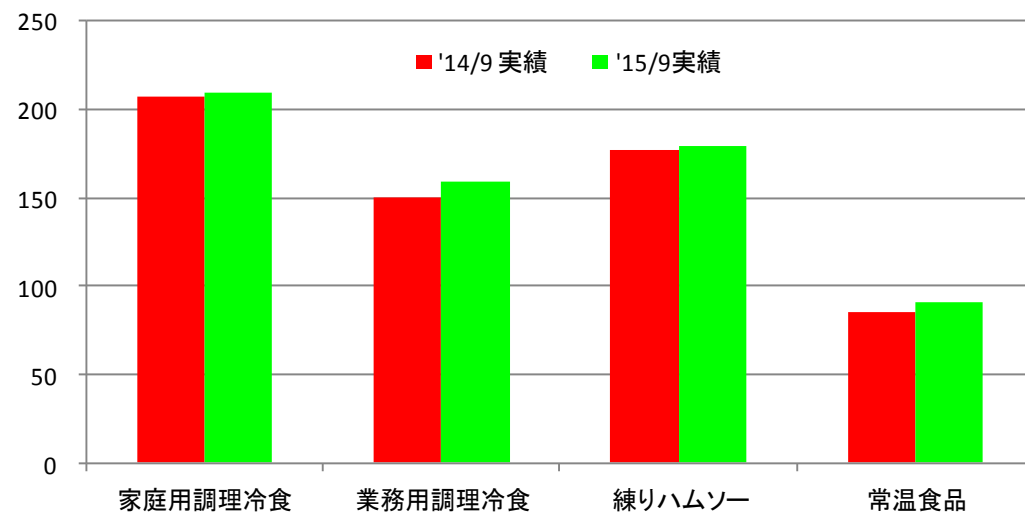
＜売上高(月別)＞

(単位:億円)



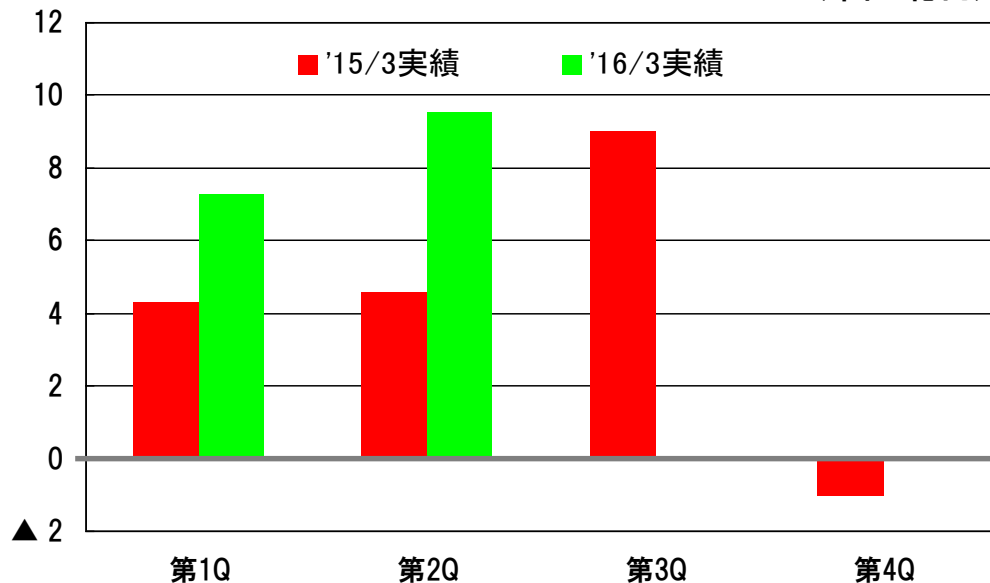
＜カテゴリー別 売上高(前年同期比)＞

(単位:億円)



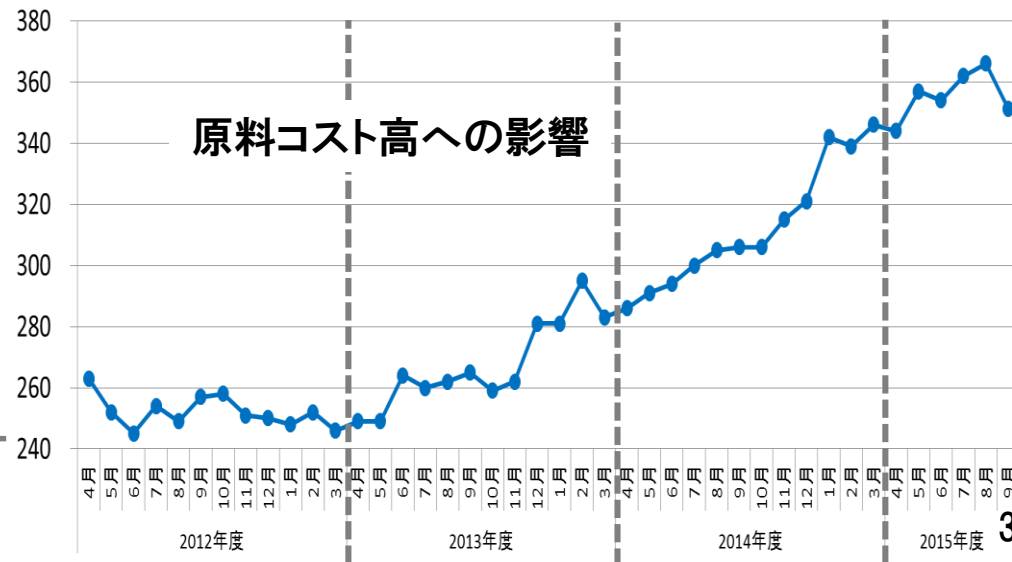
＜営業利益(四半期別)＞

(単位:億円)



＜冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)＞

(単位:円/kg)



◆後発品使用促進策等の影響により、前年からの苦戦が続く

(単位: 億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率	2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	127	128	▲ 1 98.8%	280	45.4%
営業利益	22	26	▲ 4 84.0%	44	50.7%
営業利益率	17.6%	20.7%	- -	15.7%	-

主な増減要因

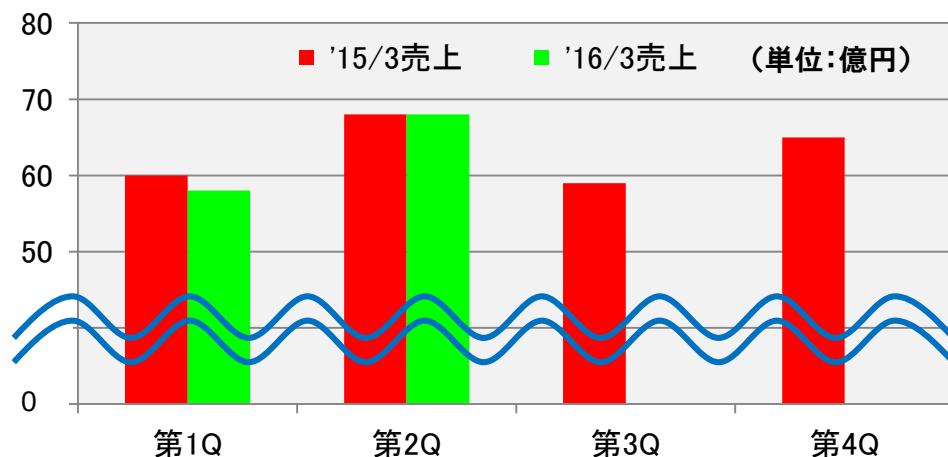
【ニッスイ個別】

- ・医薬原料
後発品使用促進策などによる販売数量の減少

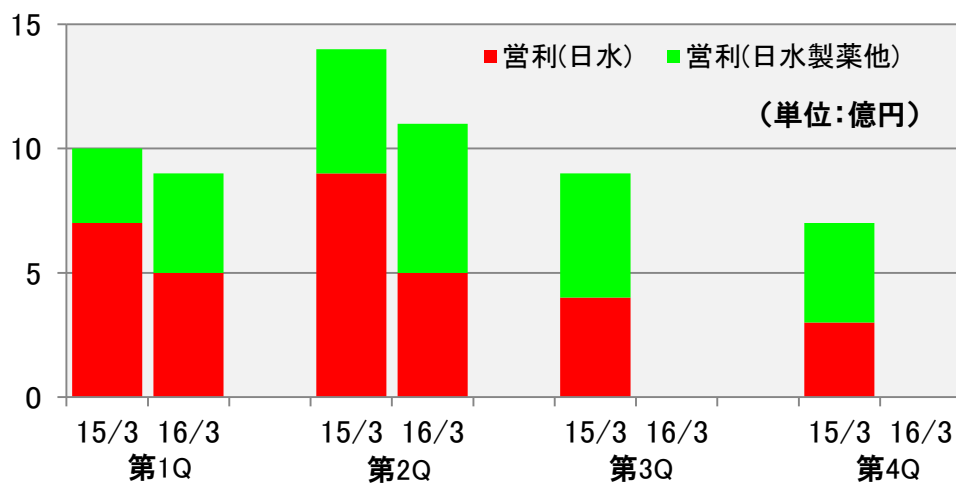
【グループ】

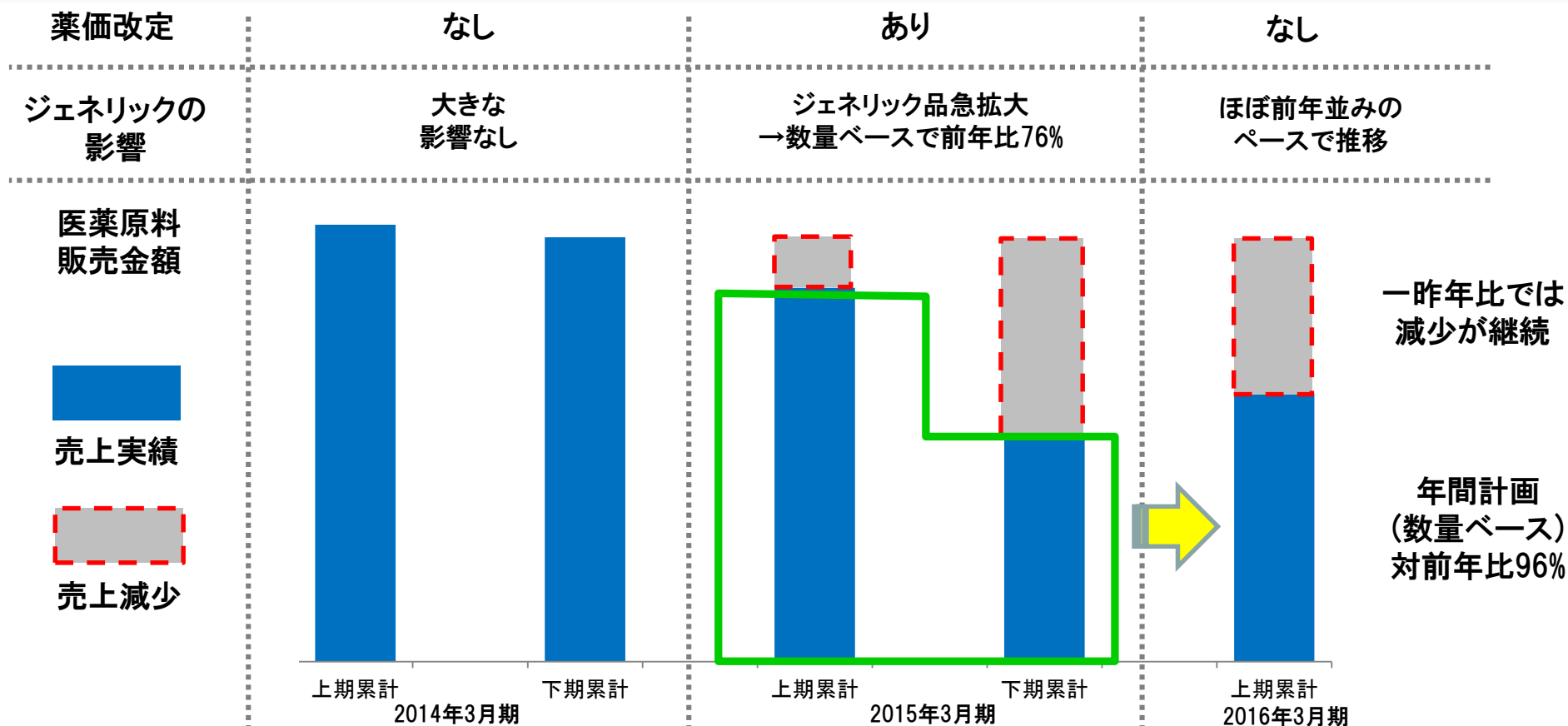
- ・臨床診断薬、産業検査薬などで販売堅調

売上高



営業利益





＜医薬原料:前年同期比 ▲約7億円減益＞
前年度のジェネリック品の伸長からシェア回復に苦戦

＜機能性食品:前年同期比 約1.5億円増益＞
休眠顧客呼び戻し(DM)実施、広告宣伝媒体の見直し

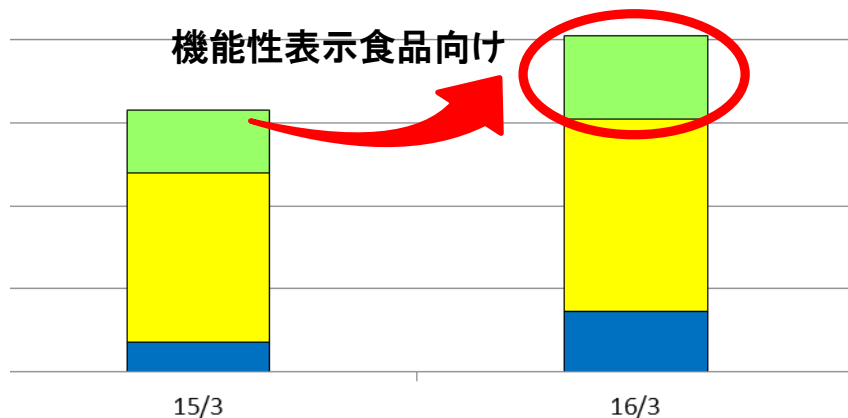
＜機能性原料:前年同期比 約1億円増益＞
EPA・DHAの原料販売増加(機能性表示食品等)
売上高は対前年同期比で約130%

＜研究開発費:前年同期比 ▲約2億円減益＞
将来の成長に向けた研究開発費の投入

他社への取組:EPA・DHAの原料販売

EPA・DHAの原料販売増加:売上高は対前年同期比で約130%

■ その他 ■ DHAサプリメント ■ EPAサプリメント



EPAに関する研究の進捗

①オーストラリア メルボルン大学

オメガ3の精神分裂症等のリスクを抑える効能に関する研究発表

(出典:2015.8.11発行 Nature Communications. Amminger, G. P. et al. Longer-term outcome in the prevention of psychotic disorders by the Vienna omega-3 study. Nat. Commun. 6:7934 doi: 10.1038/ncomms8934 (2015).)

②京都大学

オメガ3由来の脂質代謝物の一種である「レゾルビンE1」が、皮膚アレルギー反応に抑制効果を有することを世界で初めて証明 (出典:2015.10.6公表 京都大学HPより)

「海から健康 EPA life」ブランドの立ち上げ



EPA+ (エパプラス)、ファッション誌「sweet」・ファッションブランド「rich」とのトリプルコラボ品新発売



× Sweet × rich



スポーツ向けにもEPAを展開

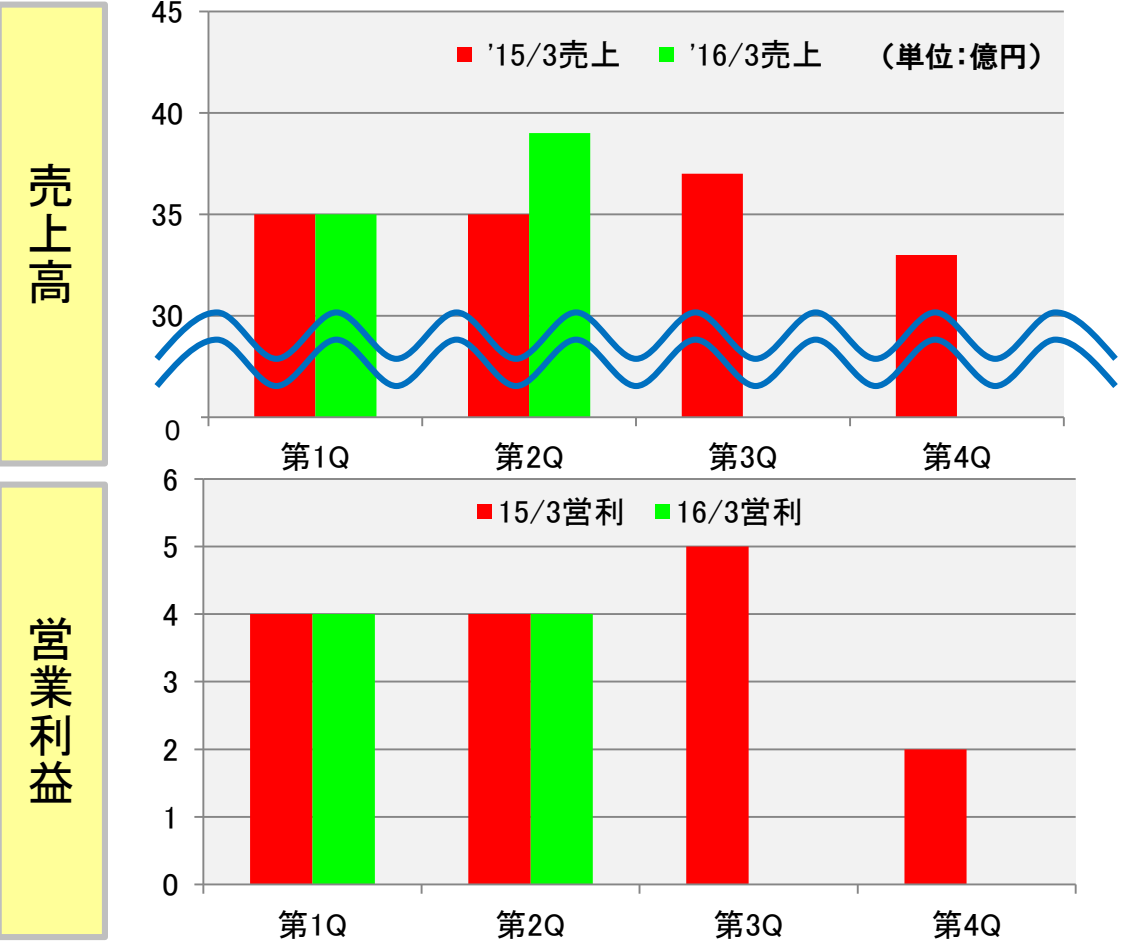


◆前年同期比でほぼ横ばいで推移

(単位: 億円)	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	75	71	3	105.5%	152	49.7%
営業利益	9	8	0	107.0%	17	53.9%
営業利益率	12.1%	12.0%	-	-	11.2%	-

主な増減要因

- ・配送事業: 運送貨物の取扱量減少
- ・冷蔵倉庫事業: 保管料収入増加



日水物流・大阪舞洲物流センター竣工予定図

連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)

	2016年3月期 第2四半期実績	売上高比 (%)	2015年3月期 第2四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	3,215		3,022		192	6.4
売上総利益	670	20.8	648	21.4	21	3.4
販売費・一般管理費	574		545		28	
営業利益	95	3.0	102	3.4	▲6	▲6.4
営業外収益	32		29		2	
営業外費用	19		17		1	
経常利益	109	3.4	115	3.8	▲5	▲5.1
特別利益	14		3		11	
特別損失	5		12		▲6	
税金等調整前四半期純利益	118	3.7	106	3.5	11	11.0
法人税等	33		27		6	
法人税等調整額	10		14		▲4	
四半期純利益	74		64		9	
非支配株主に帰属する四半期純利益	6		5		0	
親会社株主に帰属する四半期純利益	67	2.1	58	2.0	8	15.2

主な増減要因

【営業外収益・費用】

持分法による
 投資利益 約3億円増加
 助成金収入 約4億円増加
 為替差益 約5億円減少 等

主な内訳

【特別利益・損失】

2016年3月期(当期)

- 投資有価証券売却益 約14億円
- 土地減損損失 約3億円

2015年3月期(前期)

- 急激な環境変化による養殖
まぐろの斃死による損失 約8億円

連結貸借対照表(前期末比)



流動資産 2,350 (+33)	流動負債 2,163 (+39)
	固定負債 1,419 (▲7)
固定資産 2,279 (+3)	純資産 1,046 (+4)
総資産 4,630 (+37)	うち自己資本 861 (+8) 自己資本比率 18.6%

(単位:億円)

主な増減要因					
資産	+37	流動資産	+33	受取手形及び売掛金 仕掛品	+24 +10
		固定資産	+3	有形固定資産 無形固定資産 投資その他の資産	+27 ▲5 ▲18
負債	+32	流動負債	+39	支払手形及び買掛金 未払費用	+48 ▲3
		固定負債	▲7	長期借入金 繰延税金負債	▲1 ▲9
		純資産	+4	利益剰余金 その他有価証券評価差額金 繰延ヘッジ損益 為替換算調整勘定 退職給付に係る調整累計額 非支配株主持分	+67 ▲23 ▲8 ▲22 ▲5 ▲3

自己資本比率 '15/3 18.6% → '15/9 18.6%

()内の数字は前期末比増減

連結キャッシュフロー(前年同期比)



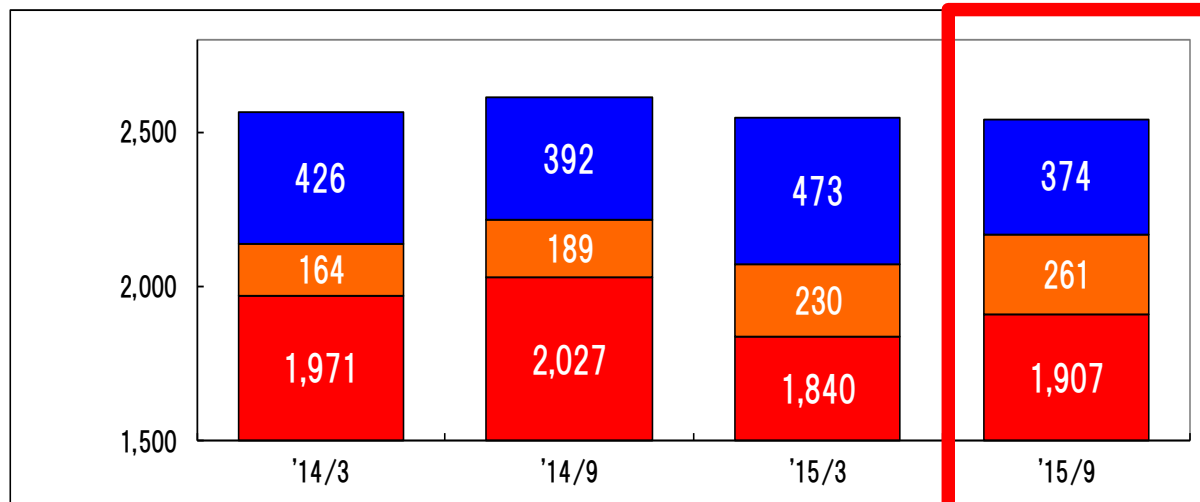
(単位: 億円)

	2016年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	増減
・ 税金等調整前四半期純利益	118	106	11
・ 減価償却費 (のれん償却含む)	83	81	1
・ 運転資本	▲ 22	▲ 147	125
・ 法人税等の支払額	▲ 19	▲ 31	12
・ その他	▲ 63	▲ 3	▲ 60
営業活動によるCF	96	5	91
・ 設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 93	▲ 61	▲ 31
・ その他	▲ 61	▲ 28	▲ 32
投資活動によるCF	▲ 154	▲ 90	▲ 64
・ 短期借入金の増減額	▲ 26	74	▲ 100
・ 長期借入金の増減額	29	▲ 13	43
・ その他	▲ 13	▲ 4	▲ 8
財務活動によるCF	▲ 9	56	▲ 66

連結借入金・純金利負担

(単位:億円)

- 海外関係会社
- 国内関係会社
- ニッスイ個別



前期末
比増減

▲99

+30

+66

借入金合計	2,561	2,608	2,543	2,542	▲1
短期借入金	1,278	1,364	1,399	1,399	+0
長期借入金	1,282	1,244	1,143	1,142	▲1
短期借入金平均利率	0.7%	0.7%	0.6%	0.6%	▲0.1%
長期借入金平均利率	1.4%	1.4%	1.3%	1.3%	▲0.0%
純金利負担	16.9	6.9	16.2	6.8	
対営業利益純金利負担率	12%	7%	9%	7%	
支払利息	32.7	14.7	30.3	13.6	
受取利息	4.7	1.8	3.9	1.6	
受取配当金	11.0	6.0	10.1	5.0	
為替レート(US\$1)	@105.39(12月末)	@101.36(6月末)	@120.55(12月末)	@122.45(6月末)	

※為替レート換算による影響額

前期末比
前年同期比 ▲2億円
+54億円

個別損益計算書(前年同期比)



(単位:億円)

	2016年3月期 第2四半期実績	売上高比 (%)	2015年3月期 第2四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	1,794		1,736		58	3.4
売上総利益	344	19.2	336	19.4	8	2.5
販売費・一般管理費	317		318		▲0	
営業利益	27	1.5	18	1.1	8	47.6
営業外収益	12		15		▲3	
営業外費用	13		11		1	
経常利益	26	1.5	22	1.3	3	16.4
特別利益	14		0		13	
特別損失	3		2		0	
税引前当期純利益	37	2.1	20	1.2	16	80.5
法人税等	4		1		2	
法人税等調整額	5		7		▲1	
当期純利益	27	1.5	11	0.7	15	137.4

主な増減要因

【販売費・一般管理費】

販売費増加
管理費減少
広告宣伝費減少

約3億円
約1億円
約1億円

主な内訳

【特別利益・損失】

2016年3月期(当期)

- 投資有価証券売却益
- 減損損失

約14億円
約2億円

第2四半期決算は為替や国内の魚価が年初想定に比べ今のところ安定しており、全体では概ね順調に推移しておりますが、特に南米における鮭鱒の養殖事業の動向が不透明であり、年間の見通しについては変更しておりません。

（単位：億円）	2016年3月期 第2四半期実績	売上高比	2016年3月期 上期公表値	売上高比	進捗率	2016年3月期 年間公表値	売上高比	進捗率
売上高	3,215		3,130		102.7%	6,360		50.6%
営業利益	95	3.0%	75	2.4%	127.9%	170	2.7%	56.4%
経常利益	109	3.4%	83	2.7%	131.7%	185	2.9%	59.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	67	2.1%	45	1.4%	151.0%	105	1.7%	64.7%

主要在外会社の 為替換算レート	2016年3月期 第2四半期実績 (6月末レート)	2016年3月期 計画レート
米ドル	122.5円	120.0円
ユーロ	137.2円	146.0円
デンマーククローネ	18.4円	20.0円

下期の主要なリスクと打ち手

【想定リスク】

- ①水産事業－鮭鱒市況の変動リスクと、チリ鮭鱒養殖事業への影響
- ②食品事業－急速な為替変動リスクと、すりみコストアップの影響継続
- ③ファイン事業－後発品使用促進策の影響継続とリカバリー策の進捗

主要な打ち手

<水産事業>

- ・鮭鱒他市況動向注視して、調達から在庫コントロールまで管理を徹底し、利益確保に努める

<食品事業>

- ・原料高騰の商品については、生産効率改善により収益性を高める
- ・為替や原料価格の状況に応じた価格対応も検討

<ファイン事業>

- ・医薬原料:EPAの効能の周知とシェア確保に向けた販売活動の強化
- ・機能性表示食品メーカー向けEPA・DHAの原料販売の拡大

<機能性表示食品>

- ・「機能性表示食品制度」を活用した、EPA・DHAを含む加工食品のブランド「海から、健康EPA life(エパライフ)」の展開

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2015年11月5日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR室広報IR課

03-6206-7044

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

